

第106回例会

日時：平成16年8月5日（木）午後12:30より

場所：八王子エルシー3階

出席者：44名（出席率 81%）（会員総数57名中3名休会中）

- 1) 例会は山崎例会委員長の司会により定刻に始まった。八王子南RC、多摩RC、多摩プロバスクラブから、総勢9名のゲストをお迎えしているとの紹介があった。
- 2) 会食に先立ち、去る7月28日に永眠された、故 川津鐵禮会員の冥福を祈り黙祷をささげた。享年70歳。
- 3) 会食後、例会が開始され、大高会長から挨拶があり、あらためて会則の見直しを行い、会則にのっとって会員の増強を図っていききたいと述べられた。
- 4) 次いで、来賓の紹介があった。（敬称略）

東京八王子南RC 幹事 山下正昭（ご挨拶）

プロバス委員長 須藤貞夫

前会長 加賀谷恵（ご挨拶）

前幹事 廣瀬武彦

東京多摩RC プロバスクラブ設立委員長 小西弘純（ご挨拶）

東京多摩プロバスクラブ

会長 蓮池守一（ご挨拶）

副会長 鈴木達夫

幹事 村上伸慈

総務委員長 鴻池敬和

ご挨拶：

山下氏：柴田会長多忙の為（産婦人科医院 院長）代理出席した。RCは現役の経営者か役員がメンバーだが、87名から62名に減少している。プロバスクラブはRCとは親子の関係ではなく、RCを継承した組織である。そして現役を退いた人の集まりなので、これからは会員増強されましょう。寸志をプロバスクラブに贈呈。

加賀谷氏：生涯初めての「皆勤賞」を頂き謝辞を述べられた。

小西氏：6月20日に35周年の祝宴を八王子京王プラザで催し、立川前会長をはじめ、250名を越す人たちのご来場をいた抱いたことに謝辞を述べられた。現在の役職はプロバス担当副委員長。

蓮池氏：多摩プロバスクラブは本年6月に発足した。発足に際しては、会則、運営など先輩の八王子プロバスからご指導を頂き感謝している。現在20名の会員で、よちよち歩きを始めたので今後ともご指導を賜りたい。多摩には多摩ニュータウンがあり、発足以来35年を過ぎ40年にならんとしており、人口の大部分を占めるニュータウンの入居者は、そろそろ定年を迎える時期に来ている。この人たちの職業を通して得た知恵・実力を活用し、高齢化・少子化する多摩地域の課題解決を支援をしていきたい。個人的なことだが、住まいは八王子市大塚。

- 5) パスト会長紹介 第二代会長 藤野豊

私は八王子生まれでもなければ育ちでもない、また働いたこともないのに、なぜ八王子プロバスクラブの最初のメンバーになったかというと、それは八王子南RCの遠藤さんの推薦で、最初

の9名の委員の一人に選ばれたことによる。最初の会長の大野聖二さんの強い指導力のもと、設立後一年経つたためかの時点で生涯学習サロンを立ち上げるようになった。そもそもプロバスクラブは親睦のためなのか、勉強が目的なのか、それとも、社会奉仕が目的なのかという、根本問題がある。これは一応卒業したことになるが、大阪のプロバスメールでは盛んに議論が行われている。プロバス協議会の中村氏の主張は明快で、プロバスクラブは社会奉仕や勉強を考えるべきではない。もっぱら親睦でいいんだ。社会奉仕や勉強をやるからだんだん人数が減って、先細りするのだという。大阪の遊びと東京の勉強が対立した構図になっている。とは言うものの、大阪は雑学ではあるが、一生懸命やっておられる。今日お見えの他のプロバスクラブのかたがたに申し上げるが、八王子だけが唯一のモデルではない。

6) 吉田幹事の報告(4点)

(a)会員増強にご協力をお願いする。ついては入会者推薦基準などに共通認識を得るため、会則など5点の資料を配布した。

(b)会員の現状：現在57名

(c)永井副幹事が会計と各委員会間の調整を担当する

(d)8月28日の八王子大江戸舞い祭りのお知らせ

7) 委員会報告

◇矢崎情報委員長：ホームページの編集方針を武田委員に代わって伝えた

(a)八王子のローカル色を発信したいので、八王子の珍しいものや話題を教えてほしい

(b)会員の活動の発表の場にしたい。絵画、写真、文芸作品、俳句、短歌、また会員の自主的活動の宣伝(講演講師、ボランティア)

プロバスだよりのフォントサイズを10ポイントから12ポイントに大きくした。コラム「私の宝物」を新設するので投稿して欲しい。副委員長は小林時雄会員にお願いした。

◇山下会員委員長

副委員長は土井俊玄会員にお願いした。会員名簿改訂版を配布した。会員増強については、「増強の取り組みについて」をよく読んで、これはという人がいれば、会員委員会には決定権はなく、審査をするのみだが、気軽に相談して欲しい。

◇小林研修委員長

副委員長に徳永保徳会員を指名。野外研修は11月11日(木)の例会日に行く。候補地については8月中旬に決定し、9月の例会で申込書を配り、10月に集金、11月に実施する。

◇佐々木地域奉仕委員長

副委員長は鶴田金通会員。サロン運営に関するアンケートに対する協力に感謝。

◇山崎例会委員長

副委員長は浅川文夫会員。ほかに報告事項なし。

8) 卓話 (西志村光治)「八王子まつりー8月6日(金)～8日(日)」

各地の祭りの報道がたくさんある。すごいエネルギーのねぶた祭り。秋田の竿灯祭り。仙台的七夕祭り(八王子にも昭和38年から6年間、七夕まつりがあった)。祇園祭。秩父の夜祭り。いずれの祭りも新聞やTVなどに上げられ宣伝されているのに反し、八王子まつりはそうでないのが残念である。八王子の祭りは昭和36年から始まり、当初から7回までは市民祭として「上のまつり」と「下のまつり」に分かれて開催されていたものを、昭和43年、第8回のときから、「八王子まつり」として一本化。16号を境にして、西側が上、東側が下(昔の考え方で、京都に近いほうが上、遠いほうが下。上恩方、下恩方がその例)。八王子には16台の山車があり、その内12台が市の有形文化財に指定されている。山車は大きく三つのタイプに分かれる。一つ目は矛形式(二層または三層)。二つ目は人形形式。三つ目は堂宮形式(神社の屋根)。山車はいわば彫刻の美術館。それと八王子の誇る「千貫神輿」は毎年、しか

も夜だけではなく昼間も出ており、何とか「置台」をつくり16号から以東まで持っていきたいものだ。そして街の全ての山車が16号に全員集合するようお願いしている。八王子まつりのポスターが目につかないのは問題だ。八王子は昨年、地域芸能大賞を授与されたのだから盛り上げたい。

9) 同好会のお知らせ

a) 囲碁の会：リーダーが吉田会員から下山会員へ。10月の一泊囲碁大会の申込書を配布したので、申し込んでほしい。9月の例会で参加費徴収。b) お茶の会は9月からは通常通り、第二火曜日に開催。

c) 10月21日（木）に第9回コンペを相模湖カントリークラブで行う。申し込み締め切りは9月9日（木）の例会日。

10) ご来賓退場。

11) テーブルごとの自由懇談で、野外研修の候補地について、野外サロンとの関係を踏まえて議論した。

12) プロバスソング斉唱後、大野副会長の挨拶で閉会。

投稿

標高4000^{けし}m幻の青い芥子と世界遺産を尋ねて

八木啓充

フラワーウォッチングと世界遺産（自然遺産と歴史文化遺産）を尋ねて中国・四川省の奥地（チベット自治区）へ世田谷のナショナル・トラストの人たちを中心に16人（うち女性5名）で旅に出ました。

6月15日（火）

9：30北京経由、四川省の成都行き成田発。15：25成都着。成都是古く諸葛孔明などが活躍した蜀の首都で、現在も四川省の政治、商業、交通の中心である大都市です。

夜は当初計画になかった四川省の伝統芸能で現在ユネスコに世界無形文化遺産として申請している川劇^{せんげき}を見ることにいたしました。川劇は変面劇として知られ、舞台の人物の面が一瞬のうちに次々に変わる大変不思議で珍しい劇です。

6月16日（水）

まずバスで60kmほど離れた世界歴史遺産の2300年前に造られた古代水利施設「都江堰^{とこうまん}」を観光しました。川に巨大な中洲を造り、水を平野に引き入れる大規模な水利施設です。この施設がなければ今の豊かな四川省は無かったと言われています。

その後、更に80kmほど奥地へ行った「臥龍」（パンダが生息している地域）のパンダ保護研究センターを訪れ、間じか多くのパンダを見学いたしました。



いよいよ100kmほど離れたチベット族自治地区に入ります。標高4,523mの巴朗山峠越えです。バスはヤクや山羊が草を食む急斜面を酸素不足に喘ぎあえぎ登っていきます。

周りにはいろいろな高山植物の花が咲き乱れるなか標高3,700mを過ぎた所で、「いま富士山の高さを越えました」とのマイクの声にみな拍手で歓声を上げました。最高地点に到達、しばし休憩。回りは草もほとんど無い荒涼とした所で、酸素濃度は地上の1/3以下で、目まいがして足がふらつき、5mも歩くと息が切れて一息入れなければ歩けないほどです。ここからはヒマラヤ東端の四姑娘山^{すーくわーにやん}（6,250m）が正面に見え、道は今晚の宿泊地「日隆^{りーちん}」（標高3,100m）へと向かって降りていきます。明日・明後日は日隆を基点にフラワーウォッチングのハイキングです。

6月17日（木）

生憎のみぞれ交じりの小雨中をバスで出発し、標高3,500mの双橋溝^{そうこうきゅう}・長坪溝^{ちやうへいきゅう}を溪流の瀬音

を聞きながら散策。エーデルワイスやアツモリソウ、サクラソウ、幻の青いけしなど数え切れないほどの草花を堪能いたしました。

雪がひどくなって来たので早めに切り上げ、チベット民家で昼食をとり、日隆のホテルへ帰還。夜はチベット料理と民族舞踊を楽しみました。その最中に巴朗山峠ルートに数箇所土砂崩れが起き、明日の峠越えが危ぶまれる事態が発生したという情報が入りました。現地添乗員はそれから数時間、成都との電話での手配におおわらわでした。

6月18日(金)

海子溝散策を諦め、とりあえず8:30巴朗山峠へと向かいました。道の数箇所の土砂崩れはモッコとシャベルの人海戦術で抜けられるよう作業をしていて、どうにか通過することが出来ました。成都にたどり着いたのが6:30。ほぼ10時間をバスに揺られ皆くたくた、濃い空気の中で思う存分深呼吸いたしました。夜は市内の店で、今この地で流行の火鍋料理でスタミナを回復しました。

6月19日(土)



ホテル9時出発。成都空港より空路、九寨黄龍空港へ。九寨空港は標高3,300mある6つの山頂をならして造った、丁度富士山頂が飛行場というようで、回りは斜面の空港です。昼食後いよいよ世界自然遺産・黄龍のハイキングです。標高約3,100~3,600m標高差500m往復7kmの遊歩道を5~6時間かけ苦しい息で歩きます。酸素ボンベを利用する人も多く、また歩けない人には駕籠人足が大勢待機しています。私は酸素を使いませんでしたが、血中酸素濃度を計ったところ、

72とか言われました。

正面に5,588mの雪宝頂を望み、遊歩道に沿って盆景池、玉翠彩地などブルーやエメラルドグリーンに輝く水をたたえ流れる石灰石で出来た大小の池が段々畑か棚田のように重なる独特の風景です。ようよう出発の駐車場に戻り、九寨溝のシェラトンホテルに到着。5つ星の立派なホテルです。

6月20日(日)

世界遺産・九寨溝ハイキングです。チベット族の古い村や雪を頂く峰、樹林に囲まれた緑の水を湛えた神秘的な湖の数々、その間には多くの滝が飛沫を輝かせている様は例えようがありません。ポイント、ポイントを結ぶ専用のバスで移動しながらの散策ですのであまり苦にはなりません。



紅葉の季節も素晴らしいそうです。空港に戻り19:55発で成都へ帰る予定でした。ところが、晴天なのですが我々の前の5便が空港上空まで来て成都に引き返ってしまいます。どうゆう訳かと言いますと、山頂に空港があるため、横風があると晴天でも着陸できないのです。夜遅くになり一便また一便と延着になり相当遅れて出発して行きます。我々の便が出発したのは翌早朝2:05で成都に着いたのが3時です。まさにハプニングの連続です。

6月21日(月)

いよいよ日本へ帰る日です。天気予報では6月には珍しい台風が関東地方を通過しているようです。果たして成田に着けるのか、みんないい加減ゲンナリしていました。

成田では台風はすでに過ぎ、小雨で40分遅れて無事日本の地に足を着けましたが、みな駆け足で京成電鉄の最終電車にどうにか間に合い、飛び乗りました。

雪、土砂崩れ、飛行機の延着、台風などの思わぬ出来事・旅には付き物なのでしょう。

「終わりよければ全て良し」の旅行でした。

(写真は「幻の青い芥子」、「黄龍」、「九寨溝」です)

公開のアルバム(全部で110枚の写真)を見たい人は

<http://jp.y42.photos.yahoo.co.jp/hiromitu71j>をクリックして「九寨溝・黄龍」をクリック。

第107回例会

日時：平成16年9月9日午後12時30分

場所：八王子エルシー4階

出席者：49名（出席率89% 会員総数57名、休会2名）

- 1) 山崎例会委員長の司会で定刻どおり開会した。今回はゲストが無く会員だけの例会となった。
- 2) 恒例に従ってまず会食。
- 3) 会長挨拶 大高秀夫

今日は会員だけなので和気藹々とした例会としたい。メダル新記録ラッシュのアテネオリンピックテレビ観戦での寝不足も解消した頃でしょう。感想を述べますと、期待に応える選手やそうはいかないシーンを見て、選手にかかるプレッシャーの重さを痛感させられました。また女性の活躍が目立ったが、21世紀は女性の時代と言われる証明でしょうか、男性が大和魂を失ったせいという人も居るようですが。また台風の上陸7つと言う新記録もできたが、9月はまだ来るかもしれぬので気をつけましょう。

10周年事業準備会を発足させ10周年事業への準備をスタートする事にした。当面は少人数で進め実行委員会をスタートする前準備をする。メンバーは平原元会長、石井實元会長、立川前会長、大野聖二副会長、の4名とし、会長、幹事、副幹事がお手伝いで参加する。今月16日第1回を開きます。

- 4) 幹事報告 吉田信夫

会員増強の取り組みについて、前月例会で資料を配布したが、これは新会員をお誘いする際の原則を示したものです。堅苦しいものとなったが取り違った理解が起こらぬためです。これについての意見を、役員に届けてください。会員増強の取り組みをお願いします。

- 1) 委員会報告

会員委員長 山下安雄

特に報告事項はない、本日委員会を開く。

研修委員長 小林 貞男

野外研修の計画を案内する。先月例会でテーブルごとに野外研修のアイデアを話し合って貰ったその結果6案に分けられた。大江戸めぐり、千葉ディズニーランド、奥多摩記念館めぐり、宮が瀬ダム、多摩地区旧跡、市内史跡とごみ減量化の見学学習であったがこの最後の案を採った。市内西方面として実施の下見をし、理事会に諮って今日配った案とした。細部を修正して10月例会で案内する。奮って参加してください。(11月11日朝7:30集合、4000円) 本日参加の申し込みを記入して提出願います。

地域奉仕委員長 佐々木研吾

第9回生涯学習サロンの計画中だがテーマはほぼ出揃っている。関係する会員の皆さんにたびたび電話等でご迷惑を掛けたが協力に感謝する。本日委員会を開き成案を得たい。歴史、民俗、医療健康、時事問題、生活・暮らし、美術・音楽・映画、身の回りの趣味など、従来の人気テーマと斬新なもの組み合わせられるようになる。野外サロンは23区内を考える案（日銀お台場ウォーターフロントなど）と、多摩周辺で未だ行ったことの無い所など（蘆花、実篤、有三、太宰、天文台、航空博物館など）を検討している。開講式、閉講式の特別講話も有力な方を折衝中である。

例会委員長 山崎修司

報告事項はない

情報委員長 矢崎安弘

本日プロバス便りを配布したが、八木啓充会員が中国旅行をされその旅行記を載せた、皆さん奮って投稿してください。

ホームページ担当武田洋一郎会員

今年は八王子のローカル色豊かな情報を発信する方針なので、面白い種があったら知らせて欲しい。学習サロンの小冊子が出来、各方面に配布した。ホームページに乗せるのでまずい点があれば申し出て欲しい。

6) 卓話 石井 實会員

今更卓話？奇異な感は本人だけではあるまい。当クラブの卓話は諸般の事情から年間登場者数が限られている。手造りのサロンを産み出すにあたって、しゃべる事に慣れる必要と会員の相互理解を促進する目的でスタートした卓話制度だが、当初会員の消化だけでも計算上5年は必要。加えて発足後数年間は会員の出入りが激しくて、会員番号の変更を伴う名簿作成が頻繁に行われていたもので、末尾数字による指名が制度化されていても機会を逸した当初からの会員がまだ数人残っている。指名があれば応じるのが会員の義務だが何をテーマにしたらと戸惑ってしまう。組織として卓話の目的、あり方を考え直す必要ありやと感じる次第。

ところで、卓話という言葉は広辞苑にも百科事典にも載っていない。卓とはテーブルであり、また優れている意を持つ。和製英語であるテーブルスピーチなのか、卓越した話という事なのか、過去の事例は予め資料を準備した後者に属するケースが多いような気がする。人は種々の経験を糧として成長するといわれている。体験はその人固有のものであり卓越したものとは言い難いがその発表は相互理解に役立つ。陳腐だが3つの体験を披露してみたい。

第一は北ア穂高で虫垂炎を発病した体験。昭和35年8月、2泊3日の行程で穂高に登り奥穂から下山の途中、午前7時吊り尾根で発病の気配を感じる。上高地到着午後3時。同行者の看護やタクシー運転手の親切を受け松本で入院することなく帰り、発病後25時間を経て手術、腹膜炎併発寸前だった。ヘリコプター要請の新聞記事にならずに済んだが、人の親切が身に染み自己の体力の限界に挑戦した貴重な教訓を得た。

第二は昭和52年夏神戸での事件。年1回の文書廃棄時に担当者の不注意から処理できぬ重要書類を市の生ゴミ等焼却場に投棄してしまった。悪臭立ちこみ有毒ガス発生との係員の制止を排して地下10mはある生ゴミ堆積場にクレーンで降り腐敗進行中のゴミの中を膝まで埋まりながら探索した。投棄前の再チェックを指示したのに発見できなかったのは何故か、仕事への取り組み姿勢に矛盾を感じ職員指導の難しさを痛感する。

最後は年齢相応の宗教的体験。本山京都南禅寺では境内の法堂内で燈明会を行う。般若心経等読経の中、暗い堂内をローソクを手にして徘徊しつつ懺悔する儀式だが荘厳さの中に清浄感がある。その折代表が戒壇上の導師から授燈を受けるのだが、この10年で燈明会に2回参加し、別に手を挙げた訳でもないのに2回共授燈の役を命ぜられ何か仏縁を感じている。因みに本年4月開基龜山法皇700年御忌の授戒会に参列し「實應」の戒名を貰った。

7) その他

囲碁クラブ 下山邦夫、矢崎安弘会員 毎月第1および第3金曜日に午後1時から台町市民会館でやっている、どなたでも是非ご参会を。

来月の一泊囲碁大会は12名参加の予定、締め切りは10月例会だから、ぜひまだの方も申し込みをしてください。

お茶の会 矢崎安弘9月例会は通常通り第2火曜日14日10時です、ご参集ください。10月の例会では後半年度の会費6000円を集めます。

ゴルフ同好会 小林貞男会員 10月21日木曜日相模湖CCでコンペ開催、本日まで17名の参加予定、南ロータリーのコンペと重なって、少なくなった。今まで参加したことのない人でもぜひ参加してください。

多摩西人権啓発活動地域ネットワーク協議会事業 広瀬智子会員 八王子市広報で知らされたように講演とピアノコンサートの集いが(11月2日(火)午後1時開場、いちょうホール)で行われる。八王子出身国際的活躍中の全盲ピアニスト梯 剛之さん、著名な元暴走族弁護士金崎浩之さんの演奏と講演がある。

ネットワーク事業と言うのは東京都、八王子市、法務局の3者によっている。法務局館内17市町村の中で八王子が担当して行う事業である。入場無料、往復はがきで9月30日までに申し込み、〒192-8501八王子市元本郷町3-24-1八王子市総務部総務TEL 20-7201

1) 自由懇談

各テーブル毎に20分ほどの自由懇談が行われた。

2) プロバスソング斉唱

3) 閉会

副会長 大野聖二 白露の候元気で過ごしましょうと言う閉会の言葉と共に、八王子市観光課が企画している八王子観光ミニバスツアーの紹介があった。絵画と花柳界、絹の道、絵画とフランス料理のタベ、夕焼けの里、八王子城址散策など楽しそうなミニツアーを楽しんでくださいとの話で定刻午後2時30分閉会した。

投 稿 タイ 30年の時を噛みしめながら思う

橋本綱二

2002年から、年に2、3回タイのチェンマイを訪ねる機会を得ている。1974年から75年にかけて、JICAの技術協力専門家として滞在したところで、私にとっては懐かしい町である。あれから30年、ASEANの中核をなす新興工業国として発展してきたことに驚きを禁じ得ない。

1. 日本の経済進出に対する反発が噴出した時期だった

タイに大豆育種の専門家として派遣されることが決まったのは、1973(昭和48)年のことで、出発は11月予定となった。

参加予定プロジェクトはタイからの輸入産品を増やす目的で、立ち上げには通商産業省からも専門家が加わり、大豆の生産拡大を計るというもので4年目に入っていた。この計画実施の背景は1970年代に入ってから日本企業のタイ、インドネシアなど東南アジアへの急激な進出に対する反発が強まっていたこともあった。73年には日本製品に対する不買運動が起こり、同年10月にはエスカレートして、軍事政権反対のデモが強まり10月14日、民主化を求める学生、市民と軍が衝突、タノム政権が崩壊(血の日曜日)する事態となった。タノム首相が国外へ亡命、国王の命令でサンヤ暫定政権が成立するという厳しい状況で急遽出発が延期となった。送別会をしてもらった後だった。さらに74年1月には田中角栄首相のアジア5ヶ国訪問があり、2番目の国となったタイのバンコクでは、5千人の学生デモが起き、JETRO(日本貿易振興会)ビルの前では首相の似顔絵や肖像が焼かれた。

どうなることかと、タイのニュースに気をつけていたが、その後大きな騒ぎにはならず、予定よりおよそ3ヶ月遅れの2月下旬には家族共々バンコクを経由して任地チェンマイに入った。バンコク在留邦人には、緊急時の具体的な対応などが指示されていたようだが、チェンマイでは、一般的な注意にとどまった。

チェンマイは、タイ北部の中心都市ではあるがバンコクと比べるとはるかに規模が小さく、古都

といわれるだけに、古い城壁や堀、仏塔などが残っている魅力的な都市であった。暴動などが起きたことはなかった。しかし、当時のチェンマイは日本の領事館はなく、日本人は私たちを含め3家族と単身でNGO活動を行っている人や小工場で技術指導を行っている人など、子供を入れても20人強であった。現地の人々の信頼を得ていなければ、何か起こっても対処のしようがないが、奉仕活動や技術協力など現地の人々のためにという人たちばかりだったので、心配するようなことは何も起こらなかった。私たちのプロジェクト関係者も、彼らなりに気配りしてくれていた。

ただ、在任中に日本から供与された資材の中で、何台かの自動車に苦い思いが残る。新しい車体には、既にThai-Japan Soybean Development Projectと書き込まれていたが、タイの農業省のプロジェクト責任者からの指示で、その文字を消すことになった。投石、破壊をおそれてとの言い分であったが、無性に淋しく腹立たしかった。

2. あれから30年

あれから30年、チェンマイの町も大きくなり、乗用車があふれている。空港から、周囲を堀で囲まれた城壁のある旧市街までも家並みが連なるようになった。大型スーパーマーケットも幾軒か出来、その駐車場には、マイカーとおぼしき車も多数見受けられる。日本国領事館も置かれ、日本料理屋や日本人相手のカラオケバーなどが沢山出来た。聞くところによると、常時数千人の日本人が在住しており、年金暮らしの年齢層でゴルフ三昧の人も少なくないそうだ。大規模の日系企業の工場も出来ており、その技術者もいる。

かつて働いた農業試験場は自らの力で施設の充実を図っていた。隣の農業高等専門学校は大学に昇格していた。職員の暮らし向きもずいぶん良くなっている。

74年には私の家で年末年越しのパーティをやったが、その時短波放送で紅白歌合戦を聞きたいとアンテナを張って挑戦したが、うまくいかなかった。今では常時NHKの海外向け衛星テレビ放送が見られる。

3. 歴史は舞台を変えて繰り返す

本年2月、カンボジアの農村を訪ねる機会を得たが、その風景は30年前のタイを思わせるものであった。自動車が少なく、水牛や牛があちこちで働いている、電化は遅れ、最も暑い昼下がりには木陰や高床式の家屋で涼を取っている、といった姿である。

昨年カンボジアの首都でタイ資本の進出に不快感を持っていた民衆が、タイの人気女優の発言に国の誇りが傷つけられたと過剰反応し、打ち壊しなどの騒動を起こしたニュースがあった。ちょうど私がタイに派遣された時の日本とタイの関係をタイとカンボジアに置き換えて見られるような状況である。メコン川を渡ればタイという関係は、先進国としてのタイと内戦の傷跡がまだ癒えない自国の姿とを重ね合わせ、抑圧されていた不満感が爆発したのであろう。

4. 功德を積ませていただく

タイで暮らした時、毎朝早く托鉢に回る多くの僧を街頭で待ち受け、炊きたてのご飯やいろいろなものをお供えする人々の姿を見た。いわば、貧しくとも日々功德を積んでいくという、宗教に裏打ちされた生活習慣があると思った。同時に、持てる人がものやお金を出すのは当たり前で、功德を積ませてやるという感情があり、受け取る方が感謝するというより、その機会を作ってもらったことに感謝するという考え方のあることを知った。そして「豊かな日本が援助するのは当たり前で、その機会を与えている」、という態度に慣れるのにはしばらく時間を要した。

しかし、経済成長著しい先進国の傲りをもって途上国の人々の自尊心を傷つけることが多かったのではと今は自省の念も湧いてくる。

ようやく功德を積ませていただくという感情を大事にしなければいけないと思う年になったようだ。

2003～2004 年度のテーマ「－喜びを分かち合おう・支えあえる仲間になろう－」

第108例会

日時：平成16年10月14日 午後12時30分

場所：八王子エルシィ 3階

出席者：47名(出席率 84% 会員総数 56名 休会 2名)

1) 山崎例会委員長の司会で定刻どおり開会

2) 会食

3) 大高会長挨拶

このところ台風が度々来て天候不順である。お体に留意されたい。先日テレビで面白い番組を見た。それは「ゴミの山は宝の山」というもので、以前は処理に苦勞していたプラスチック類、あるいは電化製品などの廃棄物が再生資源としていろいろな形で処理され、今や大きな資源として重要視されている。最近、中国では日本の廃棄物を、特にペットボトルなどを中心に輸入に懸命になっている。また東南アジア辺りでも廃棄された電化製品の再生化に力を入れている。資源枯渇が叫ばれている今日、この現象は大変大事で、将来は、益々この勢いが強まるのではないかと思う。折りしも来月は移動例会でゴミ処理場を見学する。参考になれば幸いである。

4) 来賓挨拶

来賓として、八王子南ロータリー・クラブ前会長の加賀谷恵氏と前幹事の広瀬武彦氏にお出で戴いた。

加賀谷氏挨拶：

今回も出席させていただいて大変嬉しい。又プロバスクラブのゴルフ・コンペには、出席するとお約束していたが、今回は南クラブと日にちが重なり、南クラブ員が出席できず、「プロバスだより」にも「出席者が少ない」と書いてある。まことに申し訳ない。そのお詫びのしるしに、当日用に差し入れを用意した。参加の皆様で飲んで戴ければ幸いです。又お誘い戴ければ幸いです。

5) 新入会員紹介 荒正勝様

推薦者(土井会員)の言葉：

会員委員会に所属した折から、新しい会員を考え、以前より適任と思っていた荒氏を推薦した次第。同氏は私の寺の檀家であり、カシオ計算機に創業以来勤務、数々の実績と経歴の持ち主である。

荒新会員の挨拶：

生まれは昭和11年10月、世田谷。小学生の時以来、母の実家の浅川に移り八王子と関係が出来た。就職は創業時のカシオに入り、トランジスターがソニーによって開発された後、シャープに次いで、会社がそれを利用しての計算機の開発に専心、次第に大きなものから小さなものへと製品が小型化。カシオ計算機として知名度も上がり会社も大きくなった。それと共に各地に工場を設立、資金需要も増大、世界各地から資金を集め今日の大をなした。荒氏はそれらの各種業務を歴任、43年勤務した後、3年前に会社を辞した。現在、妻と猫との二人と一匹暮らし。趣味は古代史。自分の姓を探ることを中心に研究している。

6) 10周年記念準備委員会報告 平原俊彦会員

この度、来年の10周年に向けて、その記念のため準備委員会を発足した。ポイントは以下の二つである。

(1) 発足以来10年のクラブの実績を、どういう形で残すか

(2) 10周年を記念して、式典、講演、アトラクション等の事業を、どのように実施するか
以上について会員諸氏の意見を、先ず、アンケートすることにした。

今日の会合の自由懇談の時間に、みんなで討議の上、提出していただきたい旨要請

7) パスト会長紹介 第三代会長 野口正久会員

世に三代目は家を傾かせるなどの言葉もあり、就任は固辞したが、大野初代会長の説得があり、お引き受けすることとなった。それから推移しての現状を見て、誠にほっとする思いである。会の初めの頃は現職を退職しても、その後又現職に復帰される方なども多く、安定してなかったが、現在は会として安定しており、更なる発展を望みたい

8) 幹事報告 吉田信夫会員

本年もいちょう祭りが11月20日(土)～21日(日)行われる。ついで協賛団体として協力をしたい。仕事は、いちょう祭りのグッズ(携帯ストラップ、道中手形、25周年記念誌)の販売を行う。この後の自由懇談の時間に、各テーブルで、日にち及び午前、午後の割り当てを行い、報告してもらいたい

9) 委員会報告

小林貞男 研修委員長

11/11(木)の移動例会には42名の参加申し込みがあった。集合は従来通り、八王子駅南口、多摩信金前に7:30集合、8:00出発。

佐々木研吾 地域奉仕委員長

1. 今度の移動例会の車中で、例年のように、いちょう祭りのグッズを販売するので各自協力いただきたい

2. 本年度のサロンであるが、開校式の講演は、戸板短大教授の星野厚子氏に伝統的な食のあり方についてをポイントに、お話をもらうこととなった。閉校式の講師は未定である。各講座の日程表を、お話をする方に配布したので、都合の悪い方はお知らせ願いたい。野外サロンは未定である。

山崎修司 例会委員長

欠席の際は、必ず、当日ではなく前日までに連絡下さい。

矢崎安弘 情報委員長

今月のプロバスだよりには橋本鋼二氏より投稿を戴いた。皆さんも奮って投稿して欲しい。

山下安雄 会員委員長

前述の荒新会員の入会の経緯について説明があった。新会員の募集を引き続き推進している。ご協力を願いたい。

10) 卓話 「呼吸法について」 鶴田金通会員

自分が現在実施している「健美操」という体操より学んだ呼吸法についてお話したい。これは、健やかに、美しく、生き生きとした自分を、コントロールできる身体を作り、肺機能を高めるものである。以下、配布した資料を基に説明する。

「全肺呼吸法」には腹式呼吸法と胸式呼吸法とあり、特に後者が大切である。その方法は、鼻から吸って口から吐くという動作を、細く、長く、力強く行うことが大事で、これにより横隔膜の上下動がなされ、腹圧、肺の拡大収縮が十分に行われる。自分も毎朝これを実施している。腹圧の作用により内臓の動きが活発化し、脂肪が燃焼し、腹筋を強化するなどの数々の効果がある。同時に、リラックス効果もあり、十分な酸素を取り入れるのに役立っている。ウォーキング、ジョギング、水泳などの有酸素運動は腹式呼吸とあいまって、基礎代謝を活発化させる。この後インターネットより得た呼吸法の効果について、いろいろと説明がなされ、このように勉強する機会を与えてくれた、卓話の指名に感謝する旨の言葉で終了した。

11) その他

囲碁クラブ(矢崎会員)：10/28(木)～29(金)の一泊囲碁大会には、12名の参加者があり、予定通り、陣谷温泉で開催する

お茶の会(矢崎会員)：毎月第二火曜日に開催しており、今回は11/9(火)で、希望者はどなたでも参加出来るので、お待ちしております

ゴルフ・クラブ(小林会員)：10/21(木)に相模湖CCにて開催。スタートが8時42分であったが、都合により9時12分にしたのでご注意を。先ほど南ロータリークラブの加賀谷前会長より、南RCのメンバーが参加できず申し訳ないとして、差し入れを頂戴した。代表してお礼を申し上げる。

12) 自由懇談

前述の10周年記念行事に関するアンケートと、いちょう祭り協賛の活動参加について、20分程グループごとの話し合いを行った

13) プロバスソング斉唱

14) 閉会

大野聖二副会長より挨拶があり、先程、三代目会長の野口正久会員より、三代目が家を傾かせる恐れのお話があったが、徳川家には、家光という立派な三代目がいて、徳川家の基礎固め、繁栄に大きく貢献した。わがクラブでも同じことが言え、野口会員に敬意を表したい。又、いちょう祭りの協賛について皆様のご協力に感謝申し上げます。来月もまた元気で集まりましょう。以上の話で定刻午後2時30分閉会した



一泊囲碁大会

平成16年10月28日(木)～29日(金)に、泊りがけの囲碁大会を開催した。場所は神奈川県津久井郡藤野町の「陣谷温泉」。分かりやすく言うと、陣馬山の南麓で、JR藤野駅から北へ4kmほど、車で12～13分、山の中に入った所で、秘湯の趣のあるところ。当日の朝は大変な好天気、インドア・ゲームにはもったいないね、と冗談が出るほど。参加者13名は、意気揚々、闘志満々でJR高尾駅のホームに集合。藤野駅で宿のマイクロバスに迎えてもらった。昼食後、大会のルール説明を受け、直に対局開始。何しろ13名の総当り制なので、1日半の間に、1人12局打たねばならぬので大変だ。夕食には、猪鍋や馬肉で舌づつみをうち、アルコールを入れ、燃料補給。夕食後再開し夜中まで対局。翌日も朝食後対局を継続。見事、昼までに全員、悲喜交々ではあるがノルマ達成。昼食後、表彰式。優勝は山崎さん。そのほかの入賞者共々、おめでとうございます。まる二日間に亘る囲碁三昧の、浮世を忘れた、そして和気藹々の楽しい時間を過ごした。

長町 幸雄

人が生を得たときの喜び、生きることの大切さを、外科医の父として体験した我が子誕生に纏わる秘話と34年後の感動劇を綴ってみることにする。

1) 命ありて、光彩を放つ人生ドラマの演出

私の半生を顧みて、1969年8月18日は長男誕生に纏わる奇妙で予期せぬ体験をした日であり、この世に生を得た彼の人生ドラマのプロローグとしても生涯忘れられぬ筈である。私事以外でも、この日は甲子園球場で全国高校野球決勝戦が伝統の松山商業と新参の三沢高校の間で行われ、歴史的な延長18回で引き分け再試合になった日であった。この実況ラジオ放送を医局で聴き終えて、珍しく早く帰宅した。妊娠腎を合併症にもつ2ヵ月後に出産予定を迎える妻を驚かせる魂胆であった。自宅玄関に着いたとき、「助けてー!」と叫ぶ悲鳴が耳を劈いた。当時上州一円を震撼させた大久保某という女性専門の殺し屋が往復していた県道の脇に借家住まいをしていた私には、咄嗟に「我が家に殺人鬼の見参か」と思い込み、靴のまま家に入った。屋内には居間の6畳間で苦悶する妻しか居らず、一瞬の安堵と同時に予期せぬ早産に遭遇して驚愕した。妊婦の股間には撥露状態の児頭が見えた。俄かに分娩介助者に変身し、妊婦を励まして長男の分娩を終えた。仮死状態の小さな新生児に人工呼吸を施して蘇生させ、私の下着でくるんで置いた。電話連絡を聞いた大学の産婦人科から同級生数人が来宅し、すでに開業していた妻の主治医でもあったH. M. 君が未熟児と産婦を引き取ってくれた。息子の母子健康手帳には、在胎34週、体重2150g、出産の時間午後6時50分の記録の他に分娩介助者名に私の名が書き込まれていた。

2) 蛙の子は蛙 Like father, like son

結婚を控え、息子が仲人に手渡した身上書には、「医師を目指した動機は父が見本です」と明記しており、更に次のような記述があった。「私は体重2150gの未熟児で羊水を吸い込み、仮死の状態でこの世に出たが、父がマウス トゥ マウスの人工呼吸によって生き返らせてくれました。今ここに医師として存在するのは父のお陰です。命の恩人である父を目標にして外科医になった・・・云々」が身上書の大要であった。息子の嫁の顔も見ずに7年前にこの世を去った内科医であった母の恩と敬慕の念にも言及してあった。余談であるが、外科蛙の子が外科蛙になった運命の絆には、命の恩人としての父との絆が内科蛙の母のそれに勝ったと思うのは私の僻目であろうか。

3) 息子からの贈り物に思いを馳せて

話を本年4月29日の明治記念館で行った結婚披露宴会場に移す。宴席ではエピローグを迎え、新郎と新婦がそれぞれの両親の前に進み出て、恒例ならば花束贈呈のシーンの筈である。しかし、私が息子から受けたのは熊の縫いぐるみであった。熊の左足底には本人のローマ字名と1969・8・18、2150gの刺繍がしてあった。息子が縫いぐるみに託したメッセージは「僕は34年前の誕生の秘密を知っている」という演出であり、同じ重量に仕上げた熊は、長いタイムトンネルを誕生時のあの日まで遡らせてくれた気配りと感激した。あの時、命を助けた未熟児の大きな成長に喝采を送った。

4) 命の代価は膨らむ夢と実現で支払える

このエッセイはガリバー旅行記ではないが、小人国の男児が普通人国でおとなになり、最良の伴侶を得て、医師の修験道を歩み始めた旅行記としたい。この国では、少子高齢化を嘆く前に、もっと眼前にいる老若男女の「命の大切さ」、「家族愛」、「親孝行」や「恩人に対する感謝」などの教育再構築が急務であろう。立派なおとなを見習えば、若者は更に高いジャンプが可能であろう。新生活に入るカップルを含め若い医師に贈るエールは、人の命の尊厳と人の痛みが解る医師を目指してジャンプせよ!である。

第109例会

日時：平成16年11月11日(木) 午前8時

場所：野外研修のため、車中の移動例会

出席者：38名（出席率 71%、会員総数56名 休会3名）

1. この日は野外研修で、午前7時30分、JR八王子駅南口多摩信前集合、バスで定刻午前8時に出発。先ず車中で資料を配布（野外研修のしおり、例会議事、プロバスだより）。次いで小林研修委員長からスケジュールの説明。

2. スケジュール：8:00八王子南口発→桂福寺→戸吹清掃工場→八王子城址→興岳寺→昼食（市民会館内レストラン）→（徒歩）郷土資料館→（徒歩）信松院→廣園寺→金剛院→（徒歩）本立寺→17:00八王子駅南口で解散

3. 八王子駅出発後、桂福寺到着までの40分間に、山崎例会委員長司会により、車中の移動例会が行われた。

例会

4. 大高会長挨拶：先日の、10周年記念行事に対するアンケートの結果をまとめ、18日の準備会に報告し、年内には大筋を纏めたい。

5. 幹事報告（吉田幹事）：長町会員が体調をくずし休会届けが出された。

6. 小林研修委員長：現在三つの同好会があるが、あと一つか二つ同好会を作りたいので、12月の例会では、会員の意見を伺いたい。そして、現在の三つの同好会に対する補助金の申請用紙を配布。

7. 佐々木地域奉仕委員長：いちょう祭りへの協力の内容は、「いちょうバザール会場」（陵南公園分園）の本部（ブースNo. 710）に詰めて、お祭りグッズ（道中手形、携帯ストラップ、25周年記念誌）の販売。11/20（土）と11/21（日）の両日、午前と午後に分けて、協力していただける会員を、各委員会から出していただいている。その人たちには、詳細な事務手続き、協力者名簿、会場の略図等の資料が配られた。

なお、今回は、例年行われていた道中手形の車中販売はなし。会場にはプロバスクラブの看板も出すので、来場して買って欲しい。

生涯学習サロンで、長町会員を予定していたが、休会のため、大野会員に変更した。

8. 山崎例会委員長：次回の例会日（12月9日（木））に、新年会の費用5千円を徴収する。新年会は1月13日（木）。

9. 矢崎情報委員長：プロバスだより第108号に長町会員の投稿を掲載。会員からの投稿を督促。

10. 山下会員委員長は欠席につき、山崎例会委員長から、報告事項なしと報告。

11. 趣味同好会

囲碁クラブ：（下山会員）一泊囲碁大会が開催され、優勝は山崎会員、準優勝は矢島会員。例会は、毎月第一金曜日と第三金曜日、午後1時から5時まで。場所は台町市民センター。多数の参加を呼びかけた。

お茶の会：（矢崎会員）例会は毎月第二火曜日の午前10時。次の例会は12月14日（火）。お酒が出るので車では来ないように。

ゴルフクラブ：（小林会員）10月21日（木）に、相模湖カントリーで開催予定した第9回ゴルフ大会は、台風23号のため中止。次回は来春を予定。

以上で例会を終了し、研修プログラムに移る。

研修プログラム

集合場所：八王子駅南口（多摩信前） 7：30 集合、8：00 出発

→桂福寺（戸吹町）（8：40～9：10）天然理心流創設者・近藤内蔵助、二代目・近藤三助の墓→八王子市戸吹清掃工場（9：20～10：20）ゴミ処理の有料化実施に鑑み実情を視察→八王子城址（元八王子町）（10：50～11：40）北条氏照の居城。天正18年に落城。曳橋などが復元されている→興岳寺（千人町）（12：00～12：30）千人頭石坂弥次右衛門義礼の墓→昼食（市民会館内レストラン）（12：30～13：30）→八王子郷土資料館（上野町）（13：40～14：40）八王子の歴史と文化をテーマに、古代から現代までの歴史を常設・展示→信松院（台町）（14：45～15：15）武田信玄四女・松姫の墓所。八王子八福神の一つ布袋尊の安置寺→廣園寺（こうおんじ）（山田町）（15：20～16：00）康応元年（138）開山の禅寺。現在の建物は江戸中期のもの。山門は都重要文化財→金剛院（上野町）（16：15～16：45）桑都 33 観音所。八王子八福神の寿光神・福祿寿の安置寺。時の金→本立寺（ほんりゅうじ）（上野町）（16：45～16：55）千人頭・原半左衛門胤廣の墓。江戸文学研究家・三田村鳶魚（えんぎょ）の墓→八王子駅南口で解散（17：00）

12. 桂福寺：この寺は戸吹町にあり、寛永2年（1625）、今から約380年前の開基。研修プログラムの最初の訪問先で、早速、研修資料を作成された野口先生から説明があった。今話題の新撰組のふるさとである。近藤勇や土方歳三の学んだ、天然理心流発祥の地である。天然理心流二代目、近藤三助の墓がある。三代目が近藤周助。四代目が新撰組組長の近藤勇。この近所には多くの千人同心が住んでおり、3軒に1軒の割合。千人同心はかなり広い土地を与えられ農業を兼業。千人町に住んでいる千人頭は旗本。近藤処士碑と松崎則栄翁碑の説明。野口先生から野口家に伝わる、天然理心流の巻物が披露された。



13. 戸吹清掃工場：係員から説明を受ける。可燃物を焼却炉で燃焼する工場で平成10年4月にオープン。処理能力は300t/日（100t/日×3炉）。200t燃すと20tの灰が出る。この灰を溶かすと、「スラグ」という黒曜石のようなガラス状の物質になる。道路舗装のアスファルトなどに試験的に使用。更に、灰からセメントを作る工場が、1～2年後には出来る。更に溶かすと、不法投棄の釘とか空き缶が溶けて、鉄分となる。200tから1～2tの割合。また、余熱を利用して発電し、場内給湯、暖冷房に使い、残りを東電に売っている。年間500万円程度。また、蒸気を向かいの「ゆったり湯」へ送りお風呂を沸かしている。質疑応答、ビデオ上映の後工場内見学。10月から実施の、ゴミ分別制度により、ゴミは大幅に減少した。
14. 戸吹不燃物処理センター：平成13年7月から、戸吹破碎処理センターから現名称に変更。当センターは、不燃性ゴミの資源化と最終処分場の延命を図るため、12年前の、平成4年に、2年間の工事を経て完成した。現在は、家電製品、パソコン、建築廃材などは、持ち込み禁止。本年6月は持込87t/日、9月は駆け込み増で163t/日、10月は有料化のため53t/日。センター内見学。
15. 八王子城址：新藤学芸員から説明を受ける。八王子城主は、小田原城主北条氏康の次男、北

条氏照。豊臣秀吉の小田原攻めの一環として、前田利家・上杉景勝連合軍に攻撃され、天正18年(1590)6月23日、一日で落城。八王子城の落城が小田原城の開城となり、戦国時代が終幕した。学芸員の案内により散歩道を進み御主殿跡へと向かった。御主殿虎口の石段では、築城当時の平積み石垣を見学し、昔を偲んだ。落城のとき女の人が投身自殺した滝も見学

16. 興岳寺：千人町にあるこの寺は、当クラブの土井会員が住職をしておられ、開創は文禄元年(1592)で、今から412年前。当寺は千人同心にゆかりの深い寺。千人頭石坂義禮(よしかた)の墓がある。慶応3年(1867)薩摩・長州連合軍は京都に進行し、官軍として幕府軍を敗北させた。千人隊として従軍していた千人同心たちも、官軍に帰順せざるを得なくなり、官軍は江戸に無血入城した。日光では、石坂義禮が千人頭として、薩長側の隊長と交渉して、幕府軍を解散させ、東照宮を兵火から守った。これが縁で、八王子は日光と姉妹市となった。義禮は八王子に戻った夜、不戦を同心に責められ自刃した。慶応4年(1868)4月10日夜のことで、介錯人が71歳の父親であった為、介錯がうまくいかず、部屋が血の海となったと伝えられる。享年60歳。

17. 昼食 は市民会館内のレストラン

18. 八王子郷土資料館：市民会館の向かいなので、昼食後自由見学。資料館が40年に亘って集めた、古代以降、各時代の資料を、三々五々見学した。車人形や機織の実演が、時折行われているようだ。

19. 信松院：この寺は台町にあり、郷土資料館から徒歩で数分のところ。武田信玄の四女松姫尼公を開基として、天正18年(1590)に創建された。松姫は7歳のとき織田信長の長男信忠と婚約したが、三方ヶ原の合戦で両家は戦うことになり、婚約は解消。織田・徳川両軍

の侵攻により、信玄の子、勝頼も天目山で討ち死。武田家は滅亡。松姫は八王子へ落ち延び、恩方にある心源院に入って尼僧になり、その後信松院を創立、武田一族の菩提を弔った。その傍ら、糸を紬ぎ絹を織り、その技術を里人に伝えた。この織物が、後世、八王子織物に発展した。ここに松姫のお墓がある。享年56歳。お墓の周りの玉垣は千人同心がお金を出し合って造っており、その名前が刻んである。戦後、八日町の北島藤次郎氏が松姫の研究をし、本を出版したが、その人が屋根つきの囲いを寄

贈した。お墓を参拝した後、宝物を拝見した。武田軍軍船の模型。松姫様坐像と肖像。松姫の八王子へ落ち延びた経路など。

20. 広園寺：所在地は山田町。まず広間に案内され、ご住職、丹波慈祥氏から寺の歴史の説明があった。開創は614年前の康永2年(1390)。開基は、大江備中守師親。毛利家の先祖。座禅堂に案内され、そこで大江師親と奥さんの木像とお位牌を拝見。当寺は、昔は末寺、百ヶ寺を擁し、「禅宗無



門関」という禅を普及する本を復刻する大事業を行った。

21. 金剛院：所在地は上野町。住職の山田氏から説明を受けた。当クラブの平原会員は檀家。今ちょうど「東京文化財ウィーク」で、街の文化財に親しんでいただく週間。当院の開創は、天正4年（1576）で、今から428年前。当時は安土桃山時代で、信長が安土城に入った年に当たり、今の八王子の姿はなかったと思われる。当院の言い伝えによると、現在地よりやや南、市民会館西の土手下の地（当院の所有地）に不動尊が建てられたのが開創と考えられる。その後現在の地に寛永8年（1631）に追崇されたと想定される。この時代であれば、八王子も既に現在の地に、宿場、市場町としての形をなし、江戸幕府より派遣された大久保長安による町作りも進んでいたと思われる。当院の敷地も、現在の中央線の北に伸びており、5千～1万坪で、大久保長安の屋敷の南に隣接していた。昭和20年8月2日未明の空襲で、山内三十数棟全てを消失したが、戦後檀信徒の支援で再建された。現在の檀家数は230軒。説明の後、金剛院会館都文化財収蔵展示室に展示されている、「高野山図 絵」、「西王母図」という屏風を拝見。



22. 本立寺（ほんりゅうじ）：所在地は上野町。開創年は永禄9年（1566）、今から438年前。千人頭原半左衛門胤廣の墓に参拝。新編武蔵風土記稿編纂に活躍した人。原家の墓には、北海道へ渡った千人同心の墓もある。原家は平家の流れ。また、この寺には、有名な江戸文学研究家、三田村鳶魚（えんぎょ）の墓がある。大横町に住んだことがあるが、下部で亡くなり、そこには海音寺潮五郎が碑文を書いた、顕彰碑が建っている。

同好会だより お茶の会

このサークルは平成15年3月、会員16名で発足し、早くも1年10ヶ月が過ぎた。その間、月一回の例会を、阿部治子会員の自宅の教場で、きちんと続けてきた。現在は毎月第二火曜日の午前10時から12までの2時間で開催している。前半の1時間は、宗偏流の先生である、阿部治子会員から、お茶の基本の手ほどきをして戴いている。今では抹茶の立て方の実習、お茶会での作法などを教えていただいている。後半の1時間は、自由気ままに、文字通りのサロン風に、雑談をしている。雑談とはいえ、茶道の話から始まって、茶道具の話、掛け軸の話、生花の話、陶磁器の話、八王子の歴史や昔話、世相、最近の事件、などなど、まで、広範囲にわたっている。最近では常時7～8名が参加しており、お茶の専門用語にも少し慣れてきて、始めた当初に比べると、大分進歩してきた。当会では、会員に限らず、どなたでも参加を歓迎している。





平成17年の新春を迎えて

大高秀夫

会員の皆様、明けましておめでとうございます。

「支え合おう・感謝の心で・“ありがとう”」のテーマを掲げてスタートしました今年度も、順調に進展し半年間を経過してまいりましたが、これも一重に役員諸氏並びに会員の皆様方のご尽力の賜物と心から感謝申し上げます。

私共、東京八王子プロバスクラブは、東京八王子南ロータリークラブの創立10周年記念事業の一環として、平成7年に誕生しました。従いまして本年10月には、創立10周年という大きな節目を迎えることとなります。昨年9月に、創立10周年記念事業準備委員会を発足し、逐次その準備を進めて参りましたが、この4月には組織を実行委員会に改め、企画構成に取り組む所存です。その節は会員の皆様の絶大なお力添えを賜りますよう、よろしくお願い致します。

新年例会・懇親会が終わりますと、2月には第9回「生涯学習サロン」が開催されます。今回は「私達の“まちとくらし”を考える」をテーマに、過去八回の実績を踏まえて、より一層の充実を図るよう準備を進めております。これを機会に全会員の英知を結集して、地域社会に大きく認知して頂けるよう精進努力して行きたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

終わりに、東京八王子プロバスクラブの益々の発展と、会員の皆様並びに御家族の皆様のご健勝を祈念してご挨拶とさせていただきます。

第110回例会

日時：平成16年12月9日（木）午後12時30分

場所：八王子エルシィ 4F

出席者：50名（出席率 89% 会員総数59名中休会 3名）

1. 開会：山崎例会委員長の司会で定刻開会
2. 会食
3. 大高会長挨拶

本日は今年の最後の例会となりました。11月20日、21日のいちょうまつりには大勢の会員の方にご協力いただき、誠に有難うございました。いちょうまつりに先立ち11月13日（土）に、いちょうまつりの25周年記念式典において、当クラブは感謝状を頂戴しました。さて、今年は異常気象により、局地豪雨、数多くの台風の上陸、中越地方の地震などがありました。仲間同士が支え合うことは勿論のことですが、自然との共生の大切さを痛切に感じました。来月の例会は新年例会となりますが、来年も健康に留意し、会員一同が元気に出席されることを祈念しております。

4. 新入会員紹介 阿部和也様（昭和19年8月生まれ、60歳。住まいは八王子市めじろ台）
推薦者（阿部治子会員）の言葉

長年、佐藤製薬に勤務し最近定年退職いたしました。現職時においては微生物の研究をされ、人柄も温厚であり、余暇には書道をたしなみ、東洋書道芸術学会の師範をなさっております。たまたま私と同郷の福島県人であり、偶然同姓です。

阿部和也新会員の挨拶：

生まれは昭和19年8月生まれ、福島県伊達町の出身です。地元の高校を卒業後上京し、北里大学に入学し化学を専攻。大学4年の時、東京医科歯科大学の医用器材研究所化学部で2年間学びました。昭和43年1月に佐藤製薬（株）に入社し、品川の研究所に勤務。4年後、北里研究所に内地留学し、微生物学を専攻。その後、佐藤製薬のメイン工場である、八王子工場に赴任し、医薬品を作る環境衛生を担当。本年8月、60歳で定年退職しました。住まいは、八王子工場赴任の4年後に高尾に構えましたが、現在はめじろ台に住んでいます。趣味は書道で、東洋書道芸術学会の松本筑峯先生のところに入門し30年になり、今は師範として教えています。今回プロバスクラブに入会することが出来まして誠に嬉しく思っております。どうぞ宜しくお願い致します。

5. 来賓挨拶

八王子南ロータリークラブ前会長 加賀谷氏

本日は柴田会長の代理として出席しました。毎月のプロバスクラブの例会に出席させて頂いて、皆さん方に顔を覚えて頂き誠に嬉しく思います。今年は既に二回も風邪を引いてしまいました。皆様方も充分健康に注意して頂きたい。プロバスクラブが、年々八王子の町の発展に協力し、幅広い活動を行っていることに對し、大変好感が持てます。より以上の実績を積まれることを常に祈っています。

記念準備委員会報告

1) 10周年記念事業の概要： 平原準備委員

立川、石井（實）、平原の各委員に、大高会長、大野（聖）副会長を加え、10周年記念事業準備委員会を発足し、会員からのアンケートを参考とし検討した結果、記念イベントは、コンサートを我々独自でやることとし、そして市民向けのものにすることにしました。記念誌については、10周年の区切りに相応しい、立派のものを作りたい。これには当クラブの歴史や催し物、更に全会員の写真とメッセージを載せようと考えています。

2) 10周年記念イベント（コンサート）について：立川準備委員

企画担当として報告いたします。陸上自衛隊、東部方面本部の音楽隊によるコンサートを開催いたします。期日は平成17年10月15日（土）、場所は八王子市民会館を確保しました。この音楽隊は、全員が音楽大学の出身者であり、いろいろな楽器が入り、幅の広いジャンルの音楽を演奏します。そして出演料は無料で、些少の楽器運搬費の負担で済みます。1,800名収容の大ホールに市民の皆様をお招きし、市民向けのイベントとしたい。夜はエルシィで簡単なセレモニーを行った後、パーティーを開き、平素お世話になっております八王子南ロータリークラブの皆様を始め、近隣のプロバスクラブ、大阪のプロバスクラブ全国協議会の皆様に声を掛けるつもりです。このパーティーには、ジャズバンドを予定しております。イベントには、全ての会員に、何らかの形でご協力をお願い致します。

3) 記念誌について：石井（實）準備委員

先日行ったアンケートの結果を集約すると、大勢は、10周年だから「立派な」ものを作りたいとのことでしたが、何が「立派」なのかが難しい。困みに5周年記念誌は、72～73ページで費用は37～8万円で出来ました。また、記念誌は誰の為のものかという問題は、大変難しいが、我々の10年の活動の結果として記念誌を作るのだから、我々主体のものになりたいと考えています。会員紹介にしても、5周年誌のときのような簡単な紹介ではなく、もっと自分をアピールできるテーマで新味を出したい。今日の自由懇談の時間帯で、100字から150字で書くテーマを提案して欲しい。更に、記念誌に盛り込む骨子について、アイディアを出して欲しい。各テーブルに配置されている情報委員は、提案をまとめ、情報委員長を通して報告して欲しい。なお、編集を担当していただける方は申し出下さい。

6. パスト会長紹介：第四代会長 田子稔会員

「東京八王子プロバスクラブ設立の経過」

平成7年3月、八王子南ロータリークラブの10周年記念事業として、プロバスクラブの設立が企画され（この時点で全国に13のプロバスクラブがあった）、南ロータリークラブの杉山準備委員長、酢屋専任委員長が中心となり、プロバスクラブ設立準備委員会が結成された。平成7年6月16日、入会予定者14名のうち、9名が出席し打ち合わせ会を開き、準備委員長として大野（聖）会員、会則作成を担当する準備副委員長は藤野会員と私、会員募集の責任者として浜野会員が決まった。会則案も決まり、平成7年10月18日、京王プラザホテルにて設立総会を開催し、運営方針、予算、役員が決まり、平成8年4月に生涯学習サロンを開催することを提案した。平成8年2月、八王子南ロータリークラブ10周年記念式典において、東京八王子プロバスクラブの設立が披露された。当初の14名が、現在59名の大所帯になり、ご同慶の至りである。

7. 幹事報告：吉田信夫幹事

- 1) 新入会員 阿部和也会員の入会により、会員総数は59名（休会が3名）になった。所属は例会委員会。
- 2) 10周年準備委員会において、記念事業の予算は290万円で組んだ。現在の積立金は120万円です。不足分を会員で負担。現在、記念事業積立金を、年二回の年会費納入時に、年会費¥18,000に加えて、¥2,000ずつ積み立てているが（納入金合計¥20,000）、¥3,000を加算する（積立金は¥5,000になる）。即ち平成17年1月と7月には、それぞれ、合計¥23,000を納入して頂きたい。なおセレモニーについては¥10,000を予定しており、会員皆様のご了解をお願いします。

8. 委員会報告

山崎例会委員長：1月13日（木）、1月度例会並びに新年会を、午後5時より藤森会館の「海苑」にて行います。午後4時30分にJR八王子駅南口より、「海苑」の送迎バスが出ます。

矢崎情報委員長：10月の野外研修の報告を、プロバスだより11月号に載せてありますので、欠席された方はご覧になって下さい。

佐々木地域奉仕委員長：いちようまつりのご協力に感謝いたします。お陰様で、グッズ販売は¥50,000の売り上げがありました。生涯学習サロンについて、聴講希望の講座を、本日選択して下さい。尚、閉講式の講演は、八王子文化財の「車人形」に決まりました。

9. 卓 話：「強化ガラスについて・・・近くて遠い強化ガラス」 小原会員

1) 強化ガラスが社会に貢献した事例

昭和39年（東京オリンピック開催）当時の電話ボックスは、上部の三面に窓がある、あまりにも見栄の悪い、軍隊色のものであった。窓のガラスも、簡単に割れるような貧弱なものが使用されていた。当時の電電公社に強化ガラスの活用を提案したところ、現在の全面ガラス張りの電話ボックスに変わることが出来た。オリンピックで海外から多くの人々が来られ、美観から非常に評判となった。

2) 強化ガラスとは

普通のガラスを加熱して冷却する工程により、ガラス自体が強化される。しかしガラス全体を均一に加熱し、表面全体を均一に冷却するには、高度な技術が必要となる。出来上がった製品は、JIS規格により割れない強度と安全性規定が定められている。その内容は、
(i) 割れないための強度は、ガラス面に、高さ1mから1.040gの鋼球を落下させ、破壊のなきこと。

(ii) 割れた場合の安全性については、人工的にガラスを破壊し、5 cm x 5 cmの面積内に、破片数が40個以上なければならない（細かく割れることにより怪我をしにくい）。
以上をクリアーしたものを強化ガラスという。

3) 強化ガラスが社会に迷惑をかけた事例

14～5年前までは、自動車のフロントガラスは強化ガラスであった。正面衝突などの事故の際、細かく割れ、ガラスによる傷害は無いが、一瞬にして視野を失い大きな事故につながる、というマイナスがあった。その為、当時の運輸省や通産省は、自動車メーカーに対し、フロントガラスを「合わせガラス」（生ガラスと生ガラスの間に中間幕を張る）に切り替えるよう要請したが、コストが高いため実行されなかった。その後NHKの放映などによる、切り替えの必要性が強く訴えられ、現在はフロントガラスだけは「合わせガラス」になっている。

10. 同好会

1) 囲碁クラブ 下山会員

当クラブは、年会費を取らず、出席ごとに席料を徴収。気軽に出席して下さい。

2) お茶の会 矢崎会員

どなたでも自由に参加できます。12月の例会は会食を予定しています。

3) ゴルフ同好会 小林（貞）会員

10月22日（木）のコンペは台風のため中止となりました。次回は来春になります。

11. 自由懇談

石井実準備委員の要望により、会員各自の、10周年記念誌に掲載する事項を検討。また、来春の生涯学習サロンの受講希望講座を選択した。

12. プロバスソングの斉唱

13. 閉会：大野（聖）副会長

本日は2004年最後の例会となりました。新しい年に向かって、二つの宿題が出ました。ひとつは10周年記念事業、もうひとつは2月から始まる生涯学習サロンです。どうぞ新しい年を迎え、元気に活躍出来ることを祈念致したいと存じます。

同好会便り

プロバスクラブ囲碁会 下山邦夫

第1金曜、第3金曜の午後はいそいそと囲碁のことを爛柯（らんか）の遊びと言う事をご存じですか？むかし晋の樵（きこり）が森で童子が碁を打っているのを、棗（なつめ）を食べ食べ、見ていて時を忘れ、気がつくともそばに置いていた斧の柄が腐っていた、帰ってみると誰一人知る人は無かった、という話。

碁好きの人は熱中する人ばかり、第1、第3金曜の午後の台町市民会館の1室は熱い楽しみでムンムンです。

今日まで来た事のある方は21名、誰でも気が向いたら参加できます。初めてで習いたい方

でも結構、初心から始めた小原会員はめきめき腕を上げたと言うもっぱらの評判です。

年に1度の泊りがけ囲碁大会も心ゆくまで趣味を満喫できる企画です。

ぜひ烏鷲（黒と白、囲碁の事）を戦わせに、囲碁会へいらっしやいませんか、（見学するだけでも）毎回10名前後の方が来ています。



第111回例会

日時：平成17年1月13日(木) 17時～18時

場所：海苑(富士森会館)

出席者：53名(出席率 93% 会員総数 60名 休会 3名)

1. 山崎例会委員長の司会で17時開会

2. 大高会長挨拶

新年明けましておめでとうございます。皆様元気な姿でお集まりいただきまして、誠に喜ばしい限りでございます。昨年は、私共新役員を発足させていただき、各委員長・理事等皆様のご協力により、半年を大過なく過ごさせていただき感謝いたしております。本日は、南ロータリーの役員の方々は多忙で、出席できないとのことで、身内だけの例会と新年宴会となりましたので、皆様ゆっくりとご歓談ください。

ここで一つ、ご報告させていただきます。この6日に、立川さんが全日本プロバス協議会の会長・副会長会議に出席されましたので、後程ご報告があるかと思えます。それにつきまして、今年は全日本プロバス協議会の方に、積極的に行動を起こさねばならなくなり、立川さんだけでは手が回らないため、立川さんの要望もあり、先日の理事会で補佐役として下山さんに、全日本プロバス協議会担当を、会長委嘱をお願いいたしました。お承認いただきたい。

それから、私どものクラブは、今年10周年を迎える大事な年で、昨年9月に準備委員会を組織しましたが、今年4月1日を目標に、実行委員会に組織を変えてスタートいたしたい。いずれにしても、今年は10周年記念行事、全日本プロバス協議会の活動、また来月からは第9回生涯学習サロンが始まり、頑張ってやって行きたいと思っております。

今年は、酉年で私も年男として、少しは羽ばたいて行きたいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

3. 新入会員の紹介 小^{こなす}柳^{かづ} 和美 様

推薦者(藤野会員)の言葉

当会には、私の他に米田さんと言う、元検事の方がおられたが亡くなられ、また成田さんもお辞めになり、法律の方が手薄になっておりました。今度小柳さんが加入されたので、よろしくお願いします。

小柳の柳は、木偏に支那の那と書いて、「ナギ」と読むそうです。その由来等につきましてはご本人からご説明いただきます。柳とは太平洋の黒潮が流れる熊野灘あたりに茂っている神様の木だそうです。小柳さんは、検察官一本で長くお勤めになり、広島高検の総務部長などを歴任され、その後、公証人として福井の公証人役場に昨年途中まで勤務され、八王子に戻られました。もともと、八王子北野台にお住まいで、これからは八王子の皆様と親しくお付き合いをしたいと言う志をお持ちなので、私共も喜んで歓迎したいと思えます。極秘情報をお伝えします、小柳さんは音楽の面でも非常に優れている方です。

小柳和美新会員の挨拶(北野台在住、70才)

今、藤野先生は支那の那と申されましたが、支那と言いますと、石原知事ではないが差別だと言うことになります。私は那須高原、また那覇の那と言っております。那と言う文字があり木が左側にあり「ナギ」と読んでおります。柳の木というのは、熊野はや速玉大社、春日神社とかのご神木となっております。東京や千葉で私の名前が少ないので、ルーツを調べましたところ、熊野の水軍ではなく、神官のようです。ここにも、学校の先生方が大勢おられますが、私は小学校から大学まで名前をまともに読んでくれた先生は一人もいなかった、お陰で授業では一回も当てられたことがありません。

私は検事を30年、公証人を10年、計40年宮仕えをいたしまして、昨年、瑞宝中綬章をいただきました。その後銀座にいる同期の弁護士に誘われ弁護士をやっております。弁護士をやってみると、検察制度の欠陥が見えてきました。検事をやっている時は、そんなことは全く考えたことがなかったことです。

それから公証人になって、離婚の件数が非常に多い、女性も男性も本能的になっており、面白くないから出て行く、と言った具合。教育の大事さ、親・学校・社会を含めて教育が非常に大事だということをしみじみ思いました。

今日プロバスの資料を見せていただき、プロの実業家と言うことにしては、非常に多種の方、政界・財界・宗教界・教育界・外交官の方までおられました、非常に視野の広い分野の方々が集まっておられることに、びっくりしました。これから色々な方と話し合いをして、自分の視野を広げたいと思っております。

昨日八王子市民会館で、舩添要一さんの講演を聴きびっくり致しました。あまりにも頭の構造が違いすぎる、視野の広さ、細かい話が全部結び付いて体系をなしている、あのような勉強の仕方、対処の仕方をこれから学んでいくことが必要だと思いました。何にも分かりませんが、どうぞよろしくお願いします。

(参考)

- 小柳氏の柳の木とは、マキ科の常緑樹、喬木、暖地の山に自生、葉は楕円形で竹に似ているが幅が広くて厚い。雌雄異株、花は夏、淡黄色の花を開かせ、種子は球形緑色肉質、老いれば樹皮脱落する。樹皮からタンニンをとる。木材としては床柱・家具など。地方により災難よけにする俗習がある。俗名 仙動木・竹柏と言う。
- 小柳氏の叙勲については、2004年秋、元前橋地検高崎支部長として、瑞宝中綬章を受賞
- 小柳氏の自己紹介後段で述べられた舩添要一氏の講演会は1月12日八王子市民会館で行われたもので、演題は「新春経済講演会」である。

4.幹事報告 吉田幹事

今日、小柳和美さんが入会され会員が60名となり、休会3名で実働57名です。小柳さんには、藤野会員と同じ例会委員会に入ってくださいます。

本日10周年記念事業の予算案を配布いたしました。この後、準備委員会の平原委員から説明をいただきます。

5.10周年記念事業予算案(¥2,944,000)について平原委員

予算案を前回の例会でお配り出来なかったもので、今回お配り致します。予算案は、これだけの経費がかかるので、これだけのお金を集めさせて欲しい、と言うことですので、先ず支出の方からお話をさせていただきます。

(1)記念事業

市民会館会場費：借り上げ費は¥170,000、これに加えてピアノ、PAシステム(拡声装置)、照明、椅子、譜面台、指揮台、反射板等の費用が¥300,000です。

出演諸費用：東部方面陸上自衛隊の吹奏楽団によるコンサートを予定しています。これは、マーチではなく、クラシックや流行歌があり、大変楽しい演奏が出来るということです。曲目については、これから相談することになっており、市民の皆様楽しんでいただけるものにしたい。自衛隊による出演料は無料ですが、楽器等の朝霞からの往復運搬費を負担しなければならないが、楽器の運搬ですので普通の運送会社では出来ない。隊員の弁当代、看板代、それと指揮者に御礼をしたい、その他で¥350,000を要します

(2)記念式典

パーティ代：。会員50名、会員外70、計120名出席を予定しましたが、会員の全員出席をお願いしたい。会員外では、南ロータリークラブの方々、これも全員出席をお願いしたい。5周年記念のときと同じ考え方です。その他近隣のプロバスクラブの会長・幹事などを考えています。

御土産代：120名を考えていますが、パーティ代同様、出席の人数分で変動します。

演奏出演料ほか雑費：パーティ会場での演奏で、ジャズが一番相応しいのではと考えています。有名な人は呼べないが、中堅どころを呼びたいと思っております。

(3)記念誌：5周年の時は¥400,000かかっており、今回はページを増やし、表紙も少し立派にしたいと思い、¥700,000計上しました。

(4)資料作成：¥200,000 これはプログラム、案内状の印刷やそれを発送する通信費です。

(5)予備費：¥194,000を計上しております。

6.全日本プロバス協議会の報告 立川会員(全日本プロバス協議会 副会長)

昨年5月に全日本プロバス協議会の副会長を拝命いたしまして、半年ほどほとんど動きが無かったのですが、今年1月6日になり、正・副会長会議の招集を受け、神戸三宮でランチミーティングをして参りましたが、出席者は4名でした。会長の大阪プロバスの中村氏、副会長の神戸北スズラン・プロバスの吉川氏、大阪プロバスの幹事の渡辺氏、当日出席予定の幹事、京都プロバスの渡辺氏は都合により欠席、それと私です。話題の中心は、プロバスクラブの関東圏、関西圏をいかに充実させるかと言うことが問題になり、関東・関西圏を纏めれば全日本がしっかりしたものになる、と言うことが究極の話でした。

現在、日本のプロバスクラブは88クラブ、クラブ会員数は2,200人です。しかし、北九州では、クラブの所在地が偏っていて、ほとんど活動をしていない状態です。全日本プロバス協議会に加入するのも5クラブ

ほどが一つになって加入しようかと言う状態です。

中村会長は、プロバスの世界大会をぜひ日本でやりたい、それからオーストラリアやニュージーランドのように10万単位のクラブ員にし、政府に対する圧力団体にもって行きたい等、遠大なる希望をお持ちのようです。とりあえず私共は、関東圏を取り纏めると言うことですが、問題として、殆どのクラブでロータリアンがメンバーの主力になっている所が多いと言うことです。今年早々から、関東圏のクラブ、現在11ありますが、そこを訪問して色々なお話をし、活動の実態をお聞きする。その次は、この周辺の、特に東京・神奈川・多摩のクラブ6～7ありますが、それらのクラブと交流会が開ければよいと思っております。また一昨日、群馬県の沼田中央ロータリークラブから電話があり、プロバスクラブを立ち上げたいのと言うお話もございますので、近々伺ってみたいと思っております。

今まで八王子のプロバスクラブであったのだが、これから全日本と言う枠の中で、羽ばたく年ではないかと思っております。今後、下山さんだけでなく、あと何人かのお手伝いをいただき進めたいと思っておりますので、よろしくお願いを致します。

7.委員会報告

情報委員会：特になし

会員委員会：(山下委員長)先程紹介のあった小柳さんにつきましては、12月9日の会員委員会で審査し、全員一致で推薦、1月6日の理事会で承認されました。会員番号は86番、例会委員会に所属していただきます。

研修委員会(小林委員長)新しい同好会の希望集約は、中間ですが報告させていただきます。現在50名から提出があり、あと6～7名からの提出を待っているところです。いままで既に活動している3クラブを除いて、「旅行」13名、「写真」10名、「美術鑑賞」17名、「社交ダンス」9名、といったところです。次回例会で三つ程度の同好会が発足できるよう調整を図って行きたいと思っております。

地域奉仕委員会：(佐々木委員長)生涯学習サロンについて申し上げます。前回の例会において、カリキュラムの選択をお願いいたしましたが、ほぼ揃ったところです。本日お配りした、第9回生涯学習サロン担当者一覧のように決めさせていただきました。一般参加者につきましては、リピーター162名の内、住所の分かっている方161名に、1月7日案内状を送付いたしました。2月初旬回収予定ですが、既に33名の方より回答をいただき、そのうち16名の方から出席の回答を頂いております。会場につきまして、今年はエルシーの地下の「アンシャンテ」を使用しないよう考えております。従って、会場費がかさむことになりますので、皆様に参加者の勧誘をお願い致します。担当者一覧で、司会者につきましては、カリキュラムの選択に当たり、第一希望者の中から選択し、本人および話し手の方々の了解を頂いております。会場係りですが、地域奉仕委員会の中から、私のほうで割り振らせていただきました。担当が重複される方もありますが、委員長・副委員長もバックアップいたしますので、よろしくお願い致します。会場係りについては、2月の例会でもお話を予定しています。記録係りにつきましては、情報委員会の推薦通り記載してあります。本日、話し手の方には、出来るだけレジメを作って下さるようお願いしました。ただ講演の内容によっては、レジメが馴染まないものもありますが、一般の方からの要望もありお願いします。レジメが出来ましたなら、必ず記録担当員に渡してください。担当者一覧表の中で、一部ミスプリントがありました。野外サロンは5月12日(木)に、閉講式は5月26日(木)に、訂正をお願いします。

旧聞ですが、いちょう祭りについての追加報告です。関所札などの売り上げは、述べ82件で¥50,000、それから、初日だけですが実行委員会からの依頼で、新潟県中越地震に対する義捐金の募集をし、¥3,437が集まったので実行委員会に納付いたしました。

8.その他

ゴルフ同好会 (小林会員)16年度ゴルフコンペを予定していましたが、台風のため中止になり、これを3月末または4月上旬実施できるように、日程を調整して次回の例会で関係者に通知いたします。

9.プロバスソングの斉唱 会場の都合もあり、本日は中止。

新年宴会 18時～20時

司会：例会委員会 矢島会員の司会により18時開会

1)開会挨拶 立川前会長

2)来賓紹介・挨拶なし

3)乾杯 藤野会員

4)会食、懇談、ゲーム(ビンゴゲームとカラオケ)

最後に、「見上げてごらん夜の星を」を全員で唄い終了

5)閉会挨拶 大野副会長

投稿

天にあるバランスシート

荒 正 勝

今から55年ほど前のこと。従業員1人の町工場がとんでもない事を始めていた。それは苦しい下請けの仕事から脱却するために自社製品を作ろうと足掻いていたことだった。

それも兄おもいの弟が考えた電気機械式電動計算機を、優秀な職人であった兄が中古旋盤一台で作ろうとしていたのだ。

当時、機械式の電動計算機は貴重な外貨を使って欧米から輸入され計算事務の合理化にもてはやされていたが、日本の大企業にはそれを開発し製造する技術がなかった。

ところが発明の才能を持った弟が、日本の不得手な歯車などの機械部分を大幅に減らして、主要な計算部分を継電器（リレー・スイッチ）式にした計算機を考案したのである。

これならいけると、兄は苦しい資金繰りの中で研究費を捻出し、どうしても買わなければならない素材のみを買い、後は自分たちの智慧のあらん限りを尽くし、たった一台の旋盤をも改造して多様な工作機械に変身させ、夢の計算機部品を製作した。

昼間は下請けの仕事をこなし、夜なべで試作機の部品を作る、弟がそれを組立テストする。日曜祭日は朝からめいっぱい研究に没頭した。正月三が日は隣近所に騒音がつたわるのを恐れながら旋盤を廻した。工場といっても隣家に接する町家である。

こんな努力にもかかわらず計算機はそう簡単には動かない。どこが悪いのか、原因を突き止めては改良を行い、設計変更を重ねたが、この試作機は故障ばかり繰り返す。

計算理論に間違いが無いのに、部品の構造や鋼の材料などの原因で故障する、幾ら改良しても次から次ぎへと故障が広がり尽きることがなかった。

4～5年があっという間に過ぎて、研究に費やされた借金も増えていた。そんな時、疲れ果てた弟が云った「なんで俺はこんな馬鹿なことを始めちゃったんだ。俺がこんなことを考えなければ、兄さんにこんな迷惑をかけずに済んだのに」と。

兄は「なあに、たとえ成功しなくたって、俺達はいい仕事をしたんだ『天知る。地知る。』だよ」と答えた。本当は兄も身体を壊し倒れる寸前だった。

この電気機械式電動計算機の開発は大失敗に終わったが、弟はその後、新たな論理回路を発明して兄弟は電気計算機を完成させた。

その後、会社組織になった町工場に私は運よく入社した。その面接のとき、事務所の隅に置かれていた電気計算機の説明を聞いてびっくりした。「1 2 3 × 4 5 6 =…………5 6 0 8 8」

なにやら内部でカチカチ音がして、数秒後に表示窓にぱっと答が出る。まさに世界的発明製品だ。が、欠点はただ一つ130kgと重く運ぶのに4人を必要とした。それで私は社長が運転する小型トラックの助手席に乗り計算機配達の手伝いもした。その道すがら、社長は苦心した研究開発のことや、弁当を昼夜の2つ持って職場と夜学へ通ったことなど、息子に聞かせるように話してくれた。

後年、私も電卓開発の時期に社長に励まされ「天知る」の同じ言葉を聞いた。それに加えて「天には人それぞれのバランスシート（会計帳簿）があって、その人の一生の行為や成果はきちっと記録されている」と云われた。失敗してもいいから全力でやって見なさいと、私たち若手の開発グループに会社の運命を託された。その後、幸運にも会社は倒産の危機を免れた。

昨年暮れ（H16.12）に、宮城谷昌光の大長編を予感させる中国の歴史小説「三国志」が第三巻まで刊行された。その本の帯に何とテーマである四知一しち「天知る。地知る。我知る。子（ナンジ）知る。たれも知らないとどうして謂えるのか」と後漢の人、楊震（ヨウシン）の名言が記されていた。

私は社長が話してくれた名言の出典を初めて知り、同時に、人知れずたゆまぬ努力を重ねていた故人の微笑を思い出していた。

第112回例会

日時：平成17年2月10日（木）午後12時30分～2時30分

場所：八王子エルシー3階

出席51名（出席率88%、会員総数61名 休会3名）

1. 山崎例会委員長の司会で定刻どおり開会
2. 会食
3. 大高会長挨拶

2月は第9回のサロンが24日から始まります。定員は75名、応募はさらに増えそうだと佐々木委員長から嬉しい報告をうかがいました。しかも、新規に大勢の方が参加されるようで大変ありがたいことだと思っています。まずは来ていただいたお客様にプロバスのサロンへ参加してよかったと思っていただけるように、全員そういう気持ちでお客様をお迎えするという気持ちで、楽しい一時を過ごしていただくようにご協力をお願いします。

4. 新入会員の紹介 平 文夫様（千人町在住、74歳）

推薦者（山下安雄会員）の言葉：

八王子大横町生まれの八王子育ち、現在は千人町にお住まいです。隣接して税務事務所を開いておられましたが、12月をもって一番弟子の税理士さんに譲り顧問になられました。まじめな方で、前からプロバスにとお誘いしていましたが、ようやく仕事も一段落、入会していただけることになりました。税理士をやりながら、八王子市の固定資産税の評価委員ですとか、協力団体の幹事をやられるなど活動されておられました。プロバス会員として適当な方と思いご推薦しました。

平新会員の挨拶：

山下さんとは小学校同級です。その山下さんご紹介で入会させていただくことになりました。私は八王子生まれの八王子育ち、機屋の倅として生まれ育ちました。昭和34年に税理士登録をしまして、以後その道を歩んでいます。その間いろいろな職歴にもタッチしました。東京税理士会理事、税務審議室委員長、八王子市固定資産評価審査委員、農地課税審議委員会委員長、江戸川競艇監査委員などを何期か務めました。少し仕事に暇が出来たので、社会の中にもう一働きしたいと希望があり、この会に参加させていただくことになりました。先輩諸氏のようにはいかないと思いますが力一杯やりたいので、よろしくお願いします。

5. パスト会長紹介（第五代会長 平原俊彦会員）

発足五年目となりますと運営は順調、サロンのような催し物の実績も外部に知られるようになってきました。横須賀ロータリークラブからは横須賀でもプロバスクラブを作りたいので協力をという話がありました。資料を送るだけでなく例会を見て貰うのが良いと言うことで、サロンを開催中の例会に幹部数名が来られ見学し、好評でした。しばらくしてクラブが出来、立派に育っています。横浜、鎌倉ロータリークラブからも同様の話があり、例会に来ていただき、良い会が出来ました。

会長になったとき、オーストラリアやイギリスなどプロバスクラブの盛んな国に手紙を書き、どうしているか、どの位の規模か聞きました。それぞれ返事を貰いました。特にオーストラリアはたいへん熱心で立派な会報を作っています。それを見ますと、クラブ数は1980年初めに100、いまは2000、会員18万人もいる、それだけいたらこの様に立派な会報も出来るのだなという思いを持ちました。早く我々も協議会を通じて皆で共通のパンフレットが出来るようになれば良いなと思います。5周年なので記念行事を計画しましたが、初期の段階で予算は全くありませんでした。仕方がないので何回かに分けて皆様から拠金をいただき何とか出来ました。式典の後、日本の音楽の源泉としてのアジアの音楽を総合テーマとして話と実演をしました。話は「演歌源流考」の著者、アジア音楽祭審査委員なども務められた岡野弁さんをお願いし実演は大野、立川さんご尽力で中国、朝鮮、沖縄、モンゴルの音楽や舞踊をしました。とても良かったのですが、時間オーバーは反省しています。同時に5年の歩みをまとめた記念誌を作りました。

5周年をきっかけにして有志で旅行を計画しました。5年前に震災にあった神戸へ行こうということで、

神戸のすずらんプロバスクラブと合同のパーティを神戸のオリエンタルホテルでやったり、電飾のきれいなルミナリエを見たり大震災の後を訪ねたり良い経験だったと思っています。

6. 幹事報告 吉田幹事

- ・平 文夫（会員番号87）さんが入会、会員委員会に所属。
- ・いままで、全国各地のプロバスクラブとの交流の一つとして幹事の方から「プロバス便り」を送付していたが、昨年、八王子プロバスクラブのホームページが開かれたのでそれを見てくださいという手紙を添えて一月をもち送付をやめることにした。

7. 委員会報告

会員委員会 山下委員長：

- ・平氏の入会を含め、本日追加名簿を配布した。昨年7月に作りました名簿に貼付していただきたい。七月には新しい名簿が出るので、それまでは追加という形にしたい。
- ・会員実数60名を目標にしましたが休会者がいるので少し不足、もう一層のご協力をお願いしたい。推薦者はベテラン会員の紹介が多いが、入会年次の若い方も遠慮無く、趣旨賛同の方がおられましたらご紹介いただきたい。また、どうかなという場合は推薦書を出す前に委員会にご相談下さい。

研修委員会 小林委員長：

- ・プロバス同好会参加者調査の集約表が出来た。回答者55名 参加意思表示延べ113名。今まで活動していたゴルフ、茶道、囲碁の3同好会に加え、10名以上の参加意思表示のあった旅行会、写真、社交ダンス、美術鑑賞の4部門を新しく発足させたい。世話人は了解を取って記載した。1人ではたいへんなので参加意志した人の中から補佐役を選任して下さい。予算1サークル5千円補助。
- ・昨年、一昨年と交流を深める旅行をした。本年も旅行同好会、会員委員会と相談し検討。
- ・研修委員会は、サロン開催中は整理、案内役担当。サロンでは一般参加、来賓の方々で早く来られる方もおられるので、会員は受付前のソファの使用は遠慮して欲しい。会員は廊下側を使って休んでいただきたい。プロバス会員は受付終了後出来るだけ会場で待つようお願いしたい。

地域奉仕委員会 佐々木委員長：

- ・サロン参加人員はしかるべき数を確保できた。プロバス会員58名、一般参加75名+α、ほぼ前年並み。一般のなかでは新規参加者は15名（前年12名）。ショッパー、アサヒタウンズ、読売などに案内掲載、クリエートホール一階ロビーにはパンフレットを置いた。
 - ・サロンの受講証本日皆様に交付。ほとんどは第1希望、人員、部屋の関係でやむを得ない数名だけが第2希望となった。ご了承いただきたい。あちこちでセミナーが行われているが、サロン形式はない。当クラブはこの対話形式の特長を生かした運営を続けたい。
- 従来、開講式30分、話の紹介30分ということであったが、後半が長くなり不評の面もあった。今回は、式は来賓の挨拶で切り、その後はコーヒーを飲みながら砕けた雰囲気、話し手の紹介を一人2分前後とし、時間厳守でやりたい。
- ・なお、話し手はなるべくレジメを作って欲しい。使う機械、用具希望等については、本日中にご提出をお願いしたい。

例会委員会 山崎委員長：

次の例会は3月10日12時から13時、いつもより早くなるのでお忘れなく。

情報委員会 矢崎委員長、ホームページ関係武田委員：

- ・「プロバス便り」は荒さんの投稿を載せたので、読んで欲しい。
- ・ホームページは毎月更新している。例会後5日以内に作るよう努力している。

8. 卓話 「外来語について」 矢崎安弘会員

最近メディアで、言葉もしくは日本語が話題になっているのが目に付きます。例えば、政府のある機関が正しい敬語の使い方の例題を、向こう2年を掛けて作るそうです。私は、日頃興味を持っている「外来語」についてお話ししたいと思います。国立国語研究所の中に「外来語」委員会と言うのがあって、約20名の委員がいらしゃいます。研究所の所長以下のスタッフ、大学教授、作家、翻訳家、新聞社や出版社などのメディア代表と言った顔ぶれです。この委員会は、官庁の白書や新聞・雑誌・テレビなど、公共性の高い場で使われている、分かりにくい「外来語」について、言葉遣いを工夫し提案することを目的にしています。

「外来語委員会」は外来語の読み替え提案を三回行っています。第一回目は平成14年で62語、第二回

目は47語、第三回目は昨年10月に、33語。興味深いものがたくさんあります。インターネットで見ることが出来ますので、興味をお持ちの方は一度ご覧になったら面白いと思います。

「外来語」には、日本に定着し、日本語をより豊かにすると言う優れた面を持っています。我々の直ぐ身の回りを見渡しても、事例は枚挙に暇がありません。最近野球では、今まで聞きなれない、スターター、セットアップパー、クローザーとか野球に詳しくない人には分かりにくい言葉が出始めていますね。「リベンジ」と言う言葉もファンの口から聴きますが、どなたが流行らしたのでしょうか。暮らしの中では、コミュニティ、コミュニケーション、今どきこの言葉に遭遇して慌てて辞書を見る人は誰もいません。時間を掛けて浸透し定着したものもあれば、使い勝手が良くて瞬く間に広まったものもあります。いずれにせよ、外来語であることを全く意識せずに、ごく自然に使っています。また、専門分野の人同士であれば、どんなに難しい外来語でも、お互いに理解に問題は無く、コミュニケーションは効率的です。

以上述べたように、定着している「外来語」は、無かったらどうしようと思うくらい、コミュニケーションを大いに助けていますが、新しい外来語を、不特定多数の人に使用すると、当然理解に障害が起こります。例えば最近経済ニュースでよく聞く、「スキーム」「アウトソーシング」「ガバナンス」「コンプライアンス」「コラボレーション」「モラルハザード」「アカウンタビリティ」等など、聞き手・読み手が中高年齢層ですと、わかり難いのではないのでしょうか。

次に、上記で例に引いた外来語の、「外来語定着度調査」の結果と、言

「スキーム」体系だった公的な計画の意味で「計画」「枠組み」

全体A.(認知率)19.6%,B.(理解率)10.4%

60歳以上C.(認知率)14.9%,D.(理解率)7.5%

「認知率」その語を見聞きしたことがあると答えた人の比率

「理解率」その語の意味が分かると答えた人の比率

「アウトソーシング」業務の一部を外部に委託する意味で「外部委託」

「外部調達」 A.30.8% B.14.2% C.13.6% D.6.8%

「ガバナンス」組織が自らを統治する意味で「統治」「統治能力」

A.17.3% B.6.8% C.12.1% D.3.4%

「コンプライアンス」企業などが法令や規則を良く守る意味で

「法令遵守」 A.9.7% B.5.7% C.3.1% D.1.6%

「コラボレーション」異分野の者同士が力を出し合って共同で作

上げることで「共同制作」

A.43.8% B.18.0% C.12.1% D.2.9%

「モラルハザード」倫理観や道徳的節度が無くなり社会的責任を

果たさないことで「倫理崩壊」

A.24.6% B.10.5% C.13.8% D.4.6%

「アカウンタビリティ」行政や企業などが、社会に対して、事業

に関する情報を何時でも開示し説明できるようにしている責

任のことで「説明責任」 A.12.0% B.4.4% C.7.5% D.3.4%

計 報



第六代会長を務めた長町幸雄
会員が、2月23日亡くなられ
2月26日、日野市の桃源院で
告別式が執り行われました。
生前は、群馬大学医学部付属
病院長を務め、学会理事など
を歴任され、外科医として
消化器学会でご活躍されま
した。又当クラブにも多大
な貢献をされました。謹ん
でご冥福をお祈り申し上げま
す。享年72歳。

投 稿

私の宝物

大高 秀夫

今一般に宝物というともお宝鑑定団に出てくるような、昔の骨董品とか高価な物か、今までの人生の節目での記念とかだと思ふのだが、残念ながら私にはそういう立派な高価なものは持ち合わせがない。現在の私が宝物だと思っているものは動くもの、つまり生き物（ペット）なのだ。

10年以上も前から犬を飼いたいと言われ続けていたが、なんだかんだと理由をつけて先延ばしにしていたが、ふとした心境の変化があったのか、ある日ふらっとペットショップに行ってみた。可愛い仔犬がたくさんいてシーズーがいいとか、ダックスフントも可愛いねと妻が言っているが、私はそんな気もなく店内を歩いているうちに、あるケージの中からじっと私を見つめている仔犬がいることに気付いた。長いことケージに入れられていたのだろう、悲しそうな目で「僕をここから出して連れてって」と言っているかのよう

ってからも気になって仕方がない。妻はシーズーが欲しいと言っているのだが、私にとって犬とは足が長く鼻先が少しスーッと伸びていて、というイメージがあって、足が短く、鼻がペチャンコなのは犬には違いないが、私としてはどうしても好きになれない。2日程話し合った結果、妻もシーズーを諦めて、あの仔ならば飼ってもいいということになり、今日ペットショップに行ってみて、もういなかったら仕方が無いが、まだいたら連れて来ようということになった。店に入ってケージに近付くと、あの仔がいて、すぐ私に気付いたのか、じっと私を見ている。心なしか嬉しそうな目で、「僕を連れてってくれるんでしょ」（私が勝手にそう解釈して）と言っているようだ。

そんなことがあっての2日後、我が家の一員？となったのは、シルバー（グレー）のトイ・プードル（♀）だ。トイ・プードルはホワイト、ブラック、レッド、アプリコットが本来のカラーなので、シルバーは珍しい色だ。というのも血統書を見ると、父がホワイトで母がブラックなのだった。それでもきれいなシルバーはなかなか出ないのだそうで、連れて歩いていると「珍しい色ね」とよく声を掛けられる。名前はどのようなものかと考えたが“ノエル”（NOEL）がいいと言うので、そう名付けた。

こうして私とノエルと一緒に暮らすようになって、早いもので4年以上の月日が流れ、まもなく5歳になろうとしている。その間、いろいろなことがあった。耳の掃除をしているうちに綿棒の先の綿が取れてしまっ

て耳の中に残ってしまい、夜間救急病院に連れて行ったりしたこともあったが、それ以外には病気のしい病気はしていないのがなによりだ。

朝は6時に起床してノエルと一緒に散歩に出る。夕方も散歩に出るので1日2回散歩をするからには、自分のためにもなるようにと考え、私の歩調に合わせて歩くように訓練した。一切脇見をせずにひたすら私に付いて来る。4.5kgの小型犬なので歩くというよりは走っているようだ。お陰さまで私も規則正しい生活をするようになり健康的にも体調が良くなった。そんな訳で私の生活リズムはノエルに合わせた時間を設定して一日の行動が決まってしまう。毎日何度かノエルとお話をする。声を掛けるとじっと私の目を見て話を聞いている。私の言っていることを理解して、そのように行動するのだから可愛いものだ。「ドライブに行く」と言えば直ぐに飛びついてくる。車に乗るのが大好きで買い物などに出かけるときは一緒に乗っていく。コンソール・ボックスの上に指定席を作ってあげたので、自分の場所を知っていて、いつも指定席に座って前方を見ている。10時間もかかる秋田へ何回も行ってきた。その点が猫や他のペットとの違いで、犬ならではのいいところだと思う。

妻の言うには、私が外出して帰るとき家に向かってしていると、突然寝ていたノエルが起きだして玄関に行き、外の方を向いて待っているのだそう。それから5分ほどすると私が帰ってくるので、いつもノエルが私の帰りを教えてくれると言っている。玄関の扉を開けると全身に喜びを表現して私に飛び付いてくる。これが何とも可愛らしく嬉しいものだ。私在家に居る間はいつも近くにいて、私を見ながら安心して遊んでいるか、仰向けにひっくり返って眠っている。

ここ数年前から「癒し」とか「リラクゼーション」とかが話題になっているが、その一環としてペットブームともいわれているが、全くその通りだと思う。長い間、飼うことにためらいを感じていた私が、飼いたいと言っていた妻よりも私の方がのめりこんでしまって、ノエルのいない生活が考えられなくなってしまったのだから。ストレス解消というか「癒し」そのもので、ノエルと一緒にいる時が本当に和める至福の一時だ。

妻の友人がトイ・プードルを飼っていて、匂いは無いし毛が抜けないから、飼うのには楽だとは聞いていたが、もう4年以上になるのに家の中は犬臭くならないし、いくらブラシを掛けても、全く毛が抜けないし、初心者が飼うにはもってこいの犬種だと思う。

近所にもトイ・プードル（ブラック）を飼っている家があるが、間もなく20歳になるというのに毎日元気に散歩をしている。平均寿命14~5歳といわれているが、そうすると、間もなく5歳になるので後10年はノエルと一緒にいられるのだが、果たしてこの先10年、私の方が持ちこたえられるのかなと心配になってしまう。そうならないように健康に気をつけて、ノエルを看取ってからなどと、余計なことを考えている今日この頃である。ノエルの目を見ていて心の安らぎを与えてくれるのだから、私にとってノエルは何物にも換えがたい、私を支えてくれる、心の宝物だと思っている。



第113回例会

日時：平成17年3月10日

場所：八王子エルシー3階

出席者：52名（出席率88% 会員総数61名 休会 2名）

1. 山崎例会委員長の司会で定刻に開会
2. 去る2月23日に逝去された長町幸雄会員のご冥福を祈り全員で黙祷を奉げた。
3. 会食
4. 大高会長挨拶

3月7日に、全日本プロバス協議会の副会長以上の会議があり、立川会員が出席した。立川会員は協議会副会長として関東ブロックをとりまとめる職責があり、3月から6月にかけて、ブロック内11のプロバスクラブを下山会員と共に回り、現在の活動状況を聴取することになっている。その報告はプロバスだよりに掲載する。また、4月12日には川崎にプロバスクラブが誕生する。

第9回学習サロンの開講式が2月24日行われ、いよいよスタートした。例会の後、一回目のサロンが行われるが、いらっしゃったお客様にお楽しみいただき、喜んでお帰りいただけるよう、皆様のご協力をお願いしたい。

この秋に行います10周年記念事業の実行委員会を立ち上げるべく、3月17日に設立準備会を開きます。実行委員会は4月1日より活動を始めるが、全員のご協力をお願いしたい。

5. 来賓のご紹介

八王子南ロータリークラブ加賀谷前会長、広瀬前幹事の紹介があり、加賀谷前会長よりご挨拶を頂いた。

6. 新入会員の紹介 池田ときえ様(北野台在住) 推薦者 立川会員の言葉

久々に女性の新会員を迎えることは大変嬉しい。池田さんは長年、絵手紙の指導をされている。年齢も若くプロバスの平均年齢が下がったことも喜ばしい。

池田新会員の挨拶

絵手紙を15年、ただ遊んできたと言うだけでは、こちらの会に入れていただくには敷居が高いと思っていたのですが、今の立川さんの一言「年齢に資格がある」と言う事と、「皆様と楽しく話をさせて頂くことで世界が広がるよ」と言うアドバイスを戴きましたので、本当におこがましいのですが、お仲間に入れていただこうと思います。

7. 幹事報告 吉田幹事：長町会員がお亡くなりになったが、池田新会員の加入により会員総数は61名、休会2名、実働59名。

永井副幹事：今後5月の第3日曜日を市民健康の日として、毎年実施(今年は5月15日)。場所は富士森公園の競技場と市民体育館。特に今年は「健康フェスタ2005」と命名してアピールする。我がプロバスクラブの役割は去年同様、一般受付を担当。集合時間は9時。各委員会から2名選出し、幹事、副幹事を加え12名で実施。健康に留意されている方は是非参加して欲しい。

8. 委員会報告

研修委員会 小林委員長：研修委員会の主な行事は終了した。恒例の研修旅行については、旅行同好会が満足したので、合同で企画する。予定場所は丹沢山麓の飯山温泉。予算は¥13,000程度(交渉中)。時期は6月20日以降一泊。参加人員は30名を予定。次回4月例会で案内する。

地域奉仕委員会 佐々木委員長：お陰さまで第9回生涯学習サロンが順調にスタートした。ご意見があればいつでも申し出てもらいたい。去年の「いちよう祭り」での売り上げに対し、実行委員会から¥5,950の還付金を頂き会計に繰り入れた。

例会委員会 山崎委員長：クラブ会員総数61名、長期欠席者2名、実働59名。本日欠席7名、出席率88%。

情報委員会 矢崎委員長：本日配布のプロバスだよりに大高会長の投稿を掲載、お読みいただきたい。

会員委員会 山下委員長：2月10日の会員委員会で、池田ときえさんの入会を全員一致で推挙した。3月3日に理事会で承認され本日入会の運びとなった。会員番号は88番、所属は地域奉仕委員会。会員名簿に追加記入して下さい。

1、同好会

ゴルフクラブ：コンペの組み合わせ表を配布。南ロータリークラブの方々の参加をお願いしてあるので、変更の可能性あり。

2、プロバスソング斉唱

3、閉会 大野副会長

いよいよ生涯学習サロンが始まるが、会員の皆さんも楽しくお聞き下さい。講座の質問時間では、一般参加者の方を優先的に。花粉症に負けずに頑張ってください。

全日本プロバス協議会報告

全日本プロバス協議会の世話人副会長（立川富美代）として関東ブロックの交流を推進する役割を課せられた。各クラブの実情も不明なまま交流会を召集することも出来ないので、まず連絡網を整備する事を昨年（2004年）に行い、12クラブ（内1クラブを除く）の連絡が取れるようになった。そこで2005年からこれらのクラブを訪問し、活動の様子を拝見しながら、交流会の開催の可能性を探ることにした。3月までに3クラブを訪問したので報告しておきたい。尚今後5月に2クラブ6月7月に1クラブ訪問を計画している。

1月21日 神奈川横須賀プロバスクラブ 横須賀駅前セントラルホテル 例会に陪席、役員と懇談交流会等について意見交換

3月2日 東京多摩プロバスクラブ 聖蹟桜ヶ丘駅前多摩市関戸公民館 例会に陪席 役員との懇談経験情報交換および交流会等について

3月16日 東京品川プロバスクラブ 西品川都立中小企業センター 例会に陪席 役員との懇談クラブ活動の活性化についてほか

投稿

ランニングを楽しむ

吉田 信夫

私の趣味のひとつにランニングがある。変な市民ランナーである。小・中・高の少年時代、長距離走はクラスでは1番、学年では3～4番位だった。陸上部、スキー部などの運動部の連中にはかなわなかった。好きで勝手に走っていた程度だからやむをえない。当時は、今のようない市民マラソン大会等ではなかったが、学校対抗、地域対抗の駅伝や、成人の日の県10マイルロードレース等に出たりと、ちょっぴりエリート大会の思い出がある。社会人になってからは、時折一人で、特に仕事でのストレスを解消するために自宅の周りを走っていた。仲間と走るようになったのは、八王子に移り住むようになってからである。「八王子走ろう会」に入れてもらい、以来今日まで約25年余続いている。仕事が忙しいとの理由で、50歳代の8年間ほど、走るのを中断した。そのため走力は完全に衰え、以前の記録への期待は全くなかった。一般に、60歳を越すと、体力の衰え、体の故障、生活環境の変化などで、走力が落ち、走るのを止める人が急に増えてくる。しかし自分は走力は落ちたが、70歳に近い年で、まだ走っている。なぜ今まで続けられたのか、考えてみた。

第1に、走るのが好きだった。

第2に、仲間と走ることで、走ることへのモチベーションを維持できた。

第3に、走ろう会の世話役を引き受けた。現在まで、副会長4年、会長4年務め、立場上、走る催しには、ほとんど参加した。

第4に、各地のロードレース大会に参加し、爽快感を味わった。

第5に、走ることで、体調が良くなった。

以上のような理由の相乗効果で走り続けてこれたのではと思う。

ランニングを楽しむといっても、走れば苦しい。何が楽しいのか、走らない人には理解しにくいかもしれない。走り始めは、体はぎこちないが、2～3キロほどゆっくり走っているうちに、体が滑らかに動き出し、気分がハイの状態になる。うまくその状態を維持して走り終えた時には、たまらない爽快感を味わうことが出来る。

大会での爽快感は、まず完走することで得られる。特に、レースの後半、ペースを上げることが出来ると、それまで、前を走っている人たちを抜くことが出来、この上ない良い気分になる。途中棄権すると、挫折感だけが残る。3年ほど前、河口湖のフルマラソンに参加したとき、体調不良と膝の故障で25キロ付近で棄権した。その時の挫折感と味気なさは口では言い表せなかった。

今は、50歳頃の記録は望むべくもないが、大会で、その年の最高の記録が出ると嬉しくなる。また大会に参加しようと言う気持ちになる。

平成16年の自己記録は、5キロ23分44秒、ハーフ（約21キロ）1時間48分16秒である。平凡なタイムだが、年を考えると、まずまずかなと思う。

「年寄りには格好よく走る」が自分のモットー。そのためには、ランニング雑誌を読んだり、人からアドバイスを受けて、フォームを直す。また走りながら、道路際の店のショーウィンドウのガラスに映る自分の姿を見てフォームをチェックする等で、格好よく走れるよう工夫する。いろいろ工夫しても、良い状態で走り続けるのは難しい。特に体調が悪く少し走るのを止めると、すぐに走力が落ちる。週に3日走らないと今の走力は維持できない。だからといって毎日走るのは、この年では疲労が蓄積し故障の原因になる。その兼ね合いが難しい。2週間走らないと、元に戻すのに、1ヶ月以上かかる。特に足腰の故障を起こすと、その影響はてきめんである。仕事や家庭の都合で走れなくなったりもする。いままで膝や足首の故障で、半年1年まともに走れなくなった時が何回もあった。その都度、走力が落ち、それを少しでも回復するのに非常な苦勞をした。

今年2月、東松山森林公園でのハーフマラソンに参加した。コースが起伏のあるクロスカンントリーコースのせいもあるが、風邪が完治せず、タイムは前述の記録より10分以上も悪い過去1年間のワースト記録だった。順位も50才以上の部で、完走253人中130位と真ん中以下。しかし、このレースでの自分より年上の完走者は71才を筆頭に9名。そろそろ自分も最年長者グループの仲間入りしたかと思うとこれからは記録より、走れることに感謝してマラソン大会を楽しむことにしたいと思う。

写真 平成16年11月、丹沢湖ハーフマラソン
20キロ付近で



投稿

東京農工大学工学部附属 繊維博物館

我がクラブの濱野会員が、上記繊維博物館に所属する「繊維技術研究会」のメンバーでボランティア活動をしているとのことなので、過日、武田会員と私が、濱野会員の案内で博物館にお邪魔して話を伺った。この博物館は、JR東小金井駅南口から徒歩9分の所にあり、一般公開している。開館日：火曜日～土曜日、10:00～17:00（入館は午後4時まで）。入場料：一般¥240、学生¥120。駐車場 30台。ホームページ <http://www.tuat.ac.jp/~museum>

まず、「繊維技術研究会」の壁矢久良会長（元農工大教授、元館長）にお目にかかり説明を受けた。研究会は、1999年に発足し、組織上、繊維素材部会とプロセス部会とに分かれるが、前者は未だ組織されておらず、プロセス部会のみが動いていて濱野氏はプロセス部会長を務めている。メンバーは当初10名、現在20名。大半は農工大の卒業生だが、各加工工程の専門家、また江戸組紐伝承者など、多彩な顔ぶれ。

研究会の目的は、繊維技術の伝承、発展の歴史を調査研究し、未来の開発・展望につなげ、もの造りのための技術教育の一翼を担うこと。活動としては、博物館の展示機械の「動態展示」（かつて授業で使っていた機械や、繊維メーカーの現場で使用していた機械を整備し復活させて、運転して見せる）、館内案内、講演会の定例的開催、コンサルティングなど。

博物館の一階、二階、三階が展示室になっており、「挽く（生糸を繰る）」「織る」「編む」「組む」の各種機械が動態展示されている。組紐機、丸編機、繰糸機（蚕が作った繭から生糸を造る機械。原始的なものから、シルクストッ

キング用の生糸製造を可能にし、輸出生糸の主力機になっていった多条繰糸機、均一な太さの生糸を自動的に造る自動繰糸機(日産自動車製)、精紡機(粗糸を引き伸ばし撚りをかけ糸(単糸)を作る)、旭化成ベンベルグ製造機、ジャカード織機(紋様を作ることが出来る)、靴下編み機、エアジェット織機(日産自動車製で空気を噴射させ、その勢いで緯(よこ)糸を飛ばす)、ウォータージェット織機(日産自動車製で水を噴射させて緯糸を飛ばす)など等。多くの機械が外国で発明されたものだが、日本で発明されたものがあり、興味を引かれたものとしては、「無停止杼替式自動織機(G型)」。これは、トヨタ自動車の前身、豊田織機の豊田佐吉翁が、製織能率を大幅に向上させるには、よこ糸を自動的に補給することが絶対に必要であるとの考えのもと、1924年に発明した。展示中の織機は1927年(昭和2年)製で、博物館で動態展示されているものとしては、世界で3台目となる(大英科学博物館、東京科学博物館、当繊維博物館)。濱野会員自慢の動態展示。

その次は、「ガラ紡績機」。この機械は、長野県南安曇野の貧しい農家の8人兄弟の次男である、臥雲辰致(がうんときむね)(幼名は栄弥)なる人物が14歳のとき(安政2年、1855)に発明した。農業の傍ら、足袋底を作る仕事をしていたが、それに使う綿糸は手で紡ぐので大変手間がかかっていた。母親、兄弟、そして自らも夜遅くまで糸を紡いだ。何時の日かこの厳しい労働がもっと効率的に出来ないものかと、この少年が考えた。その後、開発の失敗や僧籍に入るなど、紆余曲折があったが、明治9年(1876)、35歳のとき完成した。翌明治10年(1877)の第一回内国勸業博覧会に出品、最高賞を受賞、豊田自動織機G型と並び賞されている。

別館には、各種ミシンが展示されており、アメリカ人I.M.Singerが考案したシンガーミシンもある。楽しい逸話がある。以前NHKで放送された「おしん」の中で、若い女性が足踏み式ミシンを踏んで縫い物をしているシーンがあったが、そこで使われたミシンがあった。また使い方を指導した人が、説明してくれた研究会のメンバーでした。

矢崎安弘 記(博物館資料参考)

故長町幸雄君を偲ぶ

5代バスト会長 平原俊彦

7代バスト会長 石井 實

私達二人にとって最も親しい友の一人であった長町幸雄君が急に逝ってしまった。誠に痛恨の極みである。私達は太平洋戦争末期、昭和20年春、都立第二中学校に入学、戦後の学制改革もあって、中学・高校の6年間、同じクラスになったことは無いが、共に机を並べ、昭和26年都立立川高校3回生として卒業した仲間である。その間、昭和20年8月2日払暁の八王子空襲では、長町君の生家、長町外科医院も焼けてしまった。

卒業後はお互い進む道が異なり親しく逢う機会も無かったが、平成10年10月長町君がプロバスクラブに入会、40余年ぶりの再会となった。クラブ設立準備委員の一人であった故北原満夫君(立川高校同窓生)が推薦人、「大変良い男で慕う人が沢山いる」との紹介の言葉どうりのお人柄で、特に医業の面でお医者さんの立場から、プロバスだよりへの連載執筆、生涯学習サロンの話し手などで大活躍され、また第6代会長として指導力を発揮されるなど、クラブの内外を問わずファンが多かったのに、医者であっても勝てぬ病もあるのか、旅立ってしまった。残念無念だ。

「長町先生は学会でも大物で数々の要職についておられ、大変な業績のある立派な先生」(ある医師の言)であったことは、葬儀の生花の山が物語っている。そんな偉い先生が友である身の幸せを感じつつも、プロバスの仕事で酷使?したのが生命を縮めた一因かもと自責の念が残ってならない。

長町君は「人が生を得た時の喜び、生きることの大切さを、外科医の父として体験した我が子誕生に纏わる秘話と34年後の感動劇を綴る」と生老病死——実録「未熟児物語」の一文をプロバスだより第108号(2004・11)に寄せている。ガンが再発し今また病床の彼が、長男の結婚を待ち望みどんなに喜んだか、外科医を継いだ長男の成長を、先輩として父として如何に見守り育んだか、そしてその子の受け取り方は……。人の命の尊厳と人の痛みが分かる医師になればと結ぶ一文に、感動を覚えつつも、これが遺稿とならぬように、杞憂であって欲しいと願っていたのだが。生あるものにとって死は避けられぬ現実とはいえ、せめて孫の顔を見せてやりたかった。

プロバスクラブの物故者も10名となってしまった。今頃冥界でプロバスクラブ発足準備会でも開催しているかなと思う。最後に言いたい。「おい、長町よ!プロバスクラブを作って待っているよ」と。ご冥福をお祈りする。

合 掌

第114回例会

日時：平成17年4月14日（木）12:00～13:10

場所：八王子エルシィ 3階

出席者：56名 出席率 93%（会員総数 62名 休会 2名）

1. 山崎例会委員長の司会で、定刻より30分繰り上げて（生涯学習サロンがある為）開会
2. 会食
3. 大高会長挨拶

昨日（4月13日）、川崎西ロータリークラブが川崎西プロバスクラブを立ち上げ、創立総会があり、お招きを受け、大高（会長）、吉田幹事、立川会員（全日本プロバス協議会副会長として）の3名で行って来た。一昨年の10月に川崎西ロータリークラブから5名の方が当クラブを参観され、その後準備を進めていたところ、川崎RCの40周年記念事業として、49名の会員でスタートされた。立川会員は、全日本協議会副会長として、全国のプロバスクラブの現況について特別講演をした。

次に、佐々木地域奉仕委員長を、総会の承認に先立ち、来期の幹事をお願いし、10周年記念行事実行委員会に入ってもらったことを、ご承認いただきたい（拍手をもって承認された）。実行委員会を今月からスタートさせたが、日程等の関係から、来期の幹事だけは先に決めさせていただき実行委員会に入ってもらわなければならない。

4. 来賓の紹介

八王子南ロータリークラブ加賀谷前委員長と広瀬前幹事が紹介され、加賀谷氏からご挨拶を頂戴した

5. 新入会員紹介 東山 栄様（泉町在住、73歳）

関戸会員（紹介者）：東京経済大学OB会東京西支部の、私が支部長、東山さんが副支部長で6年一緒に仕事をした。建築関係の仕事に従事されており、大変良いお人柄で、奥さんを大切にする人。歌とゴルフが上手。東山新会員：山梨生まれ。大学卒業後、建設会社に入社、以後40数年間勤務。不動産経営管理業務責任者。現役引退後はマンション管理士の国家資格を取得し、現在、ライジング社に籍を置く。今後、当プロバスクラブの目的達成のため力を尽くしたい。会員バッジを受領。

6. 10周年記念事業実行委員会報告 平原委員長

10周年記念行事実行委員名簿を配布した。ご覧頂いているように、実行委員会は三つのグループに分かれる。①イベント・式典・パーティ担当、②記念誌担当、③総務担当。更に次期幹事と事務局（岡田会員）が加わる。実行には諸々の仕事があるので、全員参加のご協力をいただきたい

- ・実行委員長 平原俊彦 ・次期会長 大野聖二
- ・（イベント、式典担当）副委員長 立川富美代 ・委員 下山邦夫、鶴田金通、宮崎浩平
- ・（記念誌担当）副委員長 石井 實 ・委員 矢崎安弘、武田洋一郎、中野義光、山下安雄
- ・（総務担当）副委員長 大高秀夫 ・委員 吉田信夫
- ・次期幹事 佐々木研吾 ・事務局 岡田 尚

記念誌担当委員 石井實

編集委員は5周年以後の各情報委員長をお願いした。次期の新委員長にも参加して頂く予定。過去のアンケートを踏まえ、10周年記念誌の主役は会員自身と考えている。各自最低2回は誌上に登場していただく予定。一つは顔写真入りの会員紹介欄で、400字程度の文章を作成して頂く。前回と異なり手持ち資料があるので、もう一つはストックされているものを活用したい。今回のサロンを含めて、サロンの話し手の経験者は29名、今までの記録は本日配布するので、今回分を含め自分の記録から1点を選んでいただく。そのほか平成13年1月発行のプロバスだよりNo.62以後に掲載された投稿の中から、また卓話の

記録の中から、各自に選んで頂く。以上の条件を外れる方が、新入会員を含めて11名居られるので、現情報委員長よりアプローチして貰う。記念行事は10月、従って記念誌原稿締め切りは、8月上旬となるのでご協力をお願いする。

7. 幹事報告 吉田幹事

現在会員総数62名、休会2名。実働60名。5月15日(日)の「市民健康の日」のボランティアは、各委員会から2名選出のこと。選ばれた方には、永井副幹事より集合場所、集合時間などの詳細を後刻連絡する。

8. 委員会報告

佐々木地域奉仕委員長：今回のサロン参加者は、プロバス会員60名、一般74名、計134名。サロンの本来の趣旨である、参加者間のコミュニケーションは上手くいっている模様。また受付についてもトラブル無し、受付から会場への誘導も円滑にしている。野外サロンの出欠が未だの人は、回答を寄せて欲しい。現在の参加申込者は、67名(会員31名、一般36名)。最終参加者数を80名前後と予定しているので、10数名の追加申し込みを期待している。閉講式とさよならパーティの申込書を配布したので提出して欲しい。

山崎例会委員長：本日の出席者 56名 出席率93%(会員総数62名、休会2名)

矢崎情報委員長：「プロバスだより 第113号」を配布したので、投稿や全日本プロバス協議会報告を、是非お読みください。新入会員の方は投稿の件で例会終了後お集まりいただきたい。

山下会員委員長：本日の新入会員、東山さんの件は、3月24日の会員委員会で審議、4月7日の理事会で承認を得ました。会員番号はNo.89、所属は研修委員会。

小林研修委員長：「大山一泊懇親旅行のお誘い」を配布。新しく出来た同好会、「プロバス旅行会」の企画だが、研修委員会が代わりに説明する。日時は6月22日(水)～23日(木)。宿泊は、伊勢原温泉の「ニュー天野屋」。費用は¥15,000(含むバス代、宴会費)。申し込み先：関戸会員、小林研修委員長。締め切り：5月12日の例会日。参加人員は最低30名を予定

9. 全日本プロバス協議会報告 立川委員

お配りした「全日本プロバス協議会の報告」を参照されたい。先ほど会長から話のあった、川崎西プロバスクラブの誕生で、全国のプロバスクラブの総数は90となり、その内の約6割が全国協議会に加入している。関東圏には12クラブあり、交流推進を図る為、順次訪問を予定している。

10. 同好会報告

囲碁：毎月、第一と第三金曜日が例会日。

お茶：4月から新会計年度。年会費の半期分¥6,000を未納の方は納入して下さい。

ゴルフ：コンペを3月31日、相模原カントリークラブで開催。参加者18名。優勝は南RCの高橋氏、準優勝は本日入会の東山会員、3位は矢島会員。スコアなどの詳細は「プロバスだより5月号」に掲載予定。

今回の幹事は矢島会員と鶴田会員。

11. プロバスソング斉唱

12. 閉会 大野副会長の閉会の辞で定刻に閉会。

第10回プロバスクラブ・ゴルフ・コンペを開催

第9回のコンペが台風で中止となり、改めて桜の開花が待たれる3月31日(木)、第10回コンペが18名(5組)の参加を得て、晴天の相模湖カントリークラブで盛大に開催されました。

当日は、晴天に恵まれたことや、開催が一年ぶりであって好スコアが続出し接戦となり、スコア集計後の成績発表で、下記の通りに決まりました。

また、当日は年度最終日の大変忙しい時期にもかかわらず、南RCの皆様には4名の参加を賜り、大会を盛り上げていたことを申し添えます。

開催日 平成17年3月31日(木)

相模湖カントリークラブ



成績

(敬称略)

			グロス	ハンデ	ネット
優勝	高橋	隆 (南RC)	85	13.2	71.8
準優勝	東山	栄 (新会員)	106	33.6	72.4
BG	加賀谷	恵 (南RC)	83	9.6	73.4

南RCの高橋氏は1アンダーでの優勝となりました。

大会後のパーティーは短時間でしたが、和やかにゴルフの反省や交流が充分達成できたと思います。次回の開催を期待しながら散会となりました。

ゴルフ部会事務局

次回の幹事は矢島会員と鶴田会員です。

小林 貞男

投稿

「パウチ」と「パウチ」

近田 正人

同じ発音の言葉でも、全く意味の異なる言葉がたくさんあります。皆様も種々経験されたことがあると思います。私の経験の一端をご披露いたします。

私が「パウチ」と言うカタカナ語(?)を聞いたのは、大分前のことです。その一つは、プラスチック製のケースに、身分証明書などを入れ熱処理をし、密封する機械だと承知していました(最近多くの会社で社員などがケースに紐を通して首からぶら下げている)。

しかし、この「パウチ」と言う言葉が、どこの国の言葉で、どういう意味なのか知りませんでした。

その後暫くして、ある新聞に「キャップ付きパウチやペットボトル等新型容器を使った商品が登場」と言う記事が掲載されました。

気にはなっていましたが、暫く放置していて、最近図書館の前を通ったので、係員にお願いして調べてもらいました。

現代用語辞典、外来語カタカナ辞典などによると、何のことは無い、「パウチ」とは、英語のポーチ(Pouch 小物入れ)の事でした。

また、食品関係では「調理冷凍食品」の「ホイル・イン・パック製品」の項目に「四方シールのパウチ包装」として、ある食品を凍ったまま袋ごと熱湯で加熱して食べる事が出来るように包装する事、包装の工程は、予め製袋したパウチに内容物を詰めてトップシールする、ホイル・イン・パック・製品は真空包装とする、包装材料はポリエチレンとナイロン、あるいはポリエステル等のフィルムが使用される、という事でした。

ここまでは、ご承知の方も居られると思われますが、もう一つの「パウチ」(pawchi)の方はアイヌ語です。

パウチとは、文献によりますと、現在は淫魔の意味に解釈されており、これに憑かれると、人間は狂気を発すると考えられています。

北海道アイヌの言い伝えの中に次のようなものがあります。

パウチ達は、天国のどこかにあるシュシュランベツという川のほとりに住んでいて、その川岸の土手に沿って、男も女も素っ裸になって、踊りながら土手の柳の葉を千切っては投げ、千切っては投げして暮らしています(その柳の葉が川に入るとシシャモになる)。

パウチ達は普段このようにして、シュシュランベツ川のほとりで踊りながら暮らしています。時々故郷を出て人間の村の背後の山野に姿を現し(多くの場合は全裸の美女の姿で水辺に現れる)、人間の男女を誘惑して仲間に加え、次第次第に踊りの群れを大きくしながら、世界中を踊り回っていると考えられています。

しかし、樺太地方のアイヌ古謡の中では、巫女の意味に用いられており、古くは巫女の憑神(とくしん)を指す語であったと思われます(知里 真誌保著 分類アイヌ語辞典より引用)。

「小物入れ」と「淫魔」と、どのような関係があるのでしょうか、しかし、発音は「パウチ」です。

「生きる」ということは、本能と闘うことである。生きるということとは、本能を抑制することであり、美酒に陶酔しすぎないことであり、煙を廃し、貪り食らうことをやめることである。そして常軌を逸した性衝動を抑えることであり、本能の赴くままに他を無視して自分の情動を押しつけることがないようにすることである。

私の30年間の検察官生活と公証人10年間の長い体験の中で、どろどろとした岩盤としての本能にぶち当たり、操られて葛藤し、苦闘している人々の姿に、心からなる哀れみと同情を持って対応してきた。その対決の中で巡り会った新進気鋭の若い知識とも触れあい、地鳴りのような叫びに触れて人の深層における蠢きを見詰めてきた。

公証人時代ある地方都市で膨大な若年齢層の離婚事件に接するにつけ、日本の次の時代を憂うとともに、倫理の崩壊を痛感した。彼らは熱烈に結婚して子が出来ても簡単に家庭を捨ててしまう。問いつめるとその深層の中で、本能としての感覚の世界で満足が得られないとしてあっさりとした性の求めてしまうのである。もとよりこのことは、彼らを取り巻く生活環境、すなわち「やだから」と言う理由だけで義父母らとの同居を避ける核家族化の問題、実現不能な空想的理想主義に溢れる憲法に根ざす「個性の尊重」「平等」なる美名の下に、最低限度の倫理的方向性さえも差し示さず、躰＝強制もしない戦後教育の怠慢、地域社会が次の世代である構成員に見てみない振りをして責任逃れをしてきているなどなどの要因は多々あるにしても、彼らにとっては今や決して「子は鎧」ではなく、快樂のなれの果てにすぎないとして人としての情愛を施さず、悟りを開かず、新鮮な次の情欲に走ってしまうのである。俗っぽい言い方をすれば、身体的機能の善し悪しのみによって伴侶を選びそして捨てているのである。

大学教授、聖職者、政・財界人などのハイソサエティーによる破廉恥な不詳事件の多いことも嘆かわしいことである。日夜の知識の積み重ねと実習によって構築・形成された知識人があっさりとは本能に負けて手鏡で少女の股間を盗み見たりしているのであり、密室に少女を閉じこめて「聖教育」や「個人教授」を施しているのである。これらの人々の共通項は、アダルトビデオ、ヌード写真、エロ雑誌の愛読者であることである。人は神が与え賜うた理性を持ってしてもエログロに簡単に敗退してしまうのである。事件後誰も「バカなことをしました」と本当に真摯に項垂れているのである。

もっとも最悪なことは、自ら招いたガンによって、神から預かった掛け替えのない命を失っていることである。現れやすい若い芸能人の死亡原因を見詰めてみれば、舌ガン、喉頭ガン、咽頭ガン、食道ガン、胃ガン、乳ガン、子宮ガン等による死亡事例が極めて多いことがわかる。

これらは、自ら進んで、好んで、口腔・腹腔等々にガンビルスを迎え入れていることによるのだと推断されるのである。自業自得なのである。しかし今の医学界はこのことを認めようとはしない。

もとより私は、何らの医学的知識も持ち合わせていない。しかし、名声を馳せたオシドリ歌手、オシドリ漫才、有能な司会者等々の急逝を見ていると、どうしても自己責任による結果であると思えない。ある事件で巡り会った有名国立大学のユニークな中堅医師が「不潔な性行動」がガンの原因であるという強い疑いを持っていると打ち明けてくれたことがある。雑菌で口もとを赤く腫らし、瘡蓋を作り、声帯を壊し、声を無くしたりしているのだという。ある勤務地の職員の妻がたまたま国立病院の看護婦長であったことから、真摯な疑問をぶつけてみたら「何事も消毒してからすればいいのではないですか」と洒落た答えを返してきた。さらにある地方の日本赤十字病院に入院し余命幾ばくもないと告知されて理性を失った若妻が、担当医の治療方法をなじったところ「あんた達が悪いんですよ」と懇々と論されたという。

「生命は環境さえ整えてやれば永遠である」と高校の生物の教師に教えられたことがある。百才を超えて生きた「きんさん」「ぎんさんは」自分の生活環境を自分で制御できたところに偉さがある。「長生きも芸のうち」である。

人間の生存そのものが苦であり、その原因が「過度の欲望」であると釈迦が悟っているのであるから、一時の享祿を求めて自分自身を劣悪な環境に追いやるというようなことは、神の許さざるところなのであろう。

ところで「酒も煙草も女もやらず百まで生きたバカがいる」という詠み人知らずの川柳がある。自分が自分の人生をどのように制御するかは自分の自由であるということなのだが、少なくとも自分のしていることのメリットとリスクを十分に理解して、自分の人生の選択を自分で決めることが「生きる」と言うことなのだろう。

第115回例会

日時：平成17年5月12日（木）

場所：野外サロンの車中

出席者：40名 出席率67%（会員総数 62名 休会2名）

- 1 副会長の挨拶：この日は野外サロンで、一般会員は1号車、プロバス会員は2号車に分乗した。例会は車中例会となり、大高会長は1号車に乗った為、大野副会長から開会の挨拶があった。
- 2 幹事報告：永井副幹事から、5月15日（日）の「市民健康の日」のお手伝いの件で、再確認があった。
- 3 委員会報告：
 - 例会委員会、会員委員会、情報委員会は報告事項無し
 - 研修委員会：（小林委員長）6月22日（水）～23日（木）の一泊親睦旅行の参加申込者が、現在15名にとどまっており、追加申し込みの勧誘を行った。
 - 地域奉仕委員会：（佐々木委員長）現在進行中の生涯学習サロンの参加者は、第4週まで延べ524名。野外サロンの参加者は、一般44名、プロバス会員40名、計84名と報告。
- 4 同好会報告は特になし
- 5 その他：10周年記念誌担当の石井實副委員長から、記念誌に掲載する原稿提出について、重ねて協力依頼があった。
 - 下山会員から、カメラ同好会を立ち上げる計画が披露され、その手始めに野外サロンのスナップを、開講式の当日持ち寄り展示するよう提案があった。
- 6 野外サロンの車中の為、例会は大野副会長の言葉で簡潔に終了した。

第9回野外サロン

「新緑の武蔵野に星と文学のロマンを探る」との副題をつけて、第9回野外サロンが、5月12日（木）に実施された。一般44名、プロバス会員40名、計84名が2台のバスに分乗し、定刻にJR八王子駅南口を出発した。以下がその行程。

八王子駅南口（8：15発）→蘆花恒春園（9：10～9：50）→世田谷文学館（10：00～11：00）→深大寺（12：00～13：30）深大寺門前で昼食→国立天文台（13：40～14：30）→京王フローラルガーデン・アンジェ（15：00～16：30）→八王子駅南口（17：30着）

都立蘆花恒春園：武蔵野の面影を残す雑木林の中に、徳富蘆花・愛子夫人の旧宅、墓所がある。また遺品・写真などを収蔵した記念館があり、ロシアの文豪トルストイに心酔し、訪問の記録、交換した手紙もあった。庭の一角には、八王子から贈られたお地蔵さんがあった。

世田谷文学館：常設展では、世田谷区出身・在住もしくはゆかりの作家達（徳富蘆花、武者小路実篤、志賀直哉、石川達三、石坂洋次郎、北原白秋、斉藤茂吉、大岡昇平、遠藤周作、平林たい子、林芙美子、など）の原稿、書簡、日記、写真などが展示されている。今回は、特別展「宇野千代展」が開催されており、平成8年に98歳の天寿を全うするまで、多くの小説・随筆を書き、文学界の第一線で活躍した、宇野千代の人生を紹介していた。

深大寺：深大寺そばの元祖、嶋田家で昼食。食後、深大寺や水生植物園を自由散策。水生植物園は武蔵野の伏流水が湧き出た湿地に造成した植物園で、木道の散策路を巡らせてある。湿地の脇の小高い丘を登ると、深大寺城址があり、空堀が現存し、昔を偲ばせている。

国立天文台：一行は4班に分かれ、それぞれ4人の専門家に引率され、順路に従って下記の施設を見学し

た。①**太陽系ウォーキング**：およそ100mの距離の道路わきに、太陽から土星まで6つの惑星(水星、金星、地球、火星、木星、土星)の模型が並んでいる。惑星間の距離は140億分の1、惑星の大きさは14億分の1の縮尺で作られている。天王星・海王星・冥王星は、この縮尺に入りきらないので、土星の先にまとめて展示してある。宇宙の構造を実感させ大変興味深かった。

また、それぞれの惑星の大きさが分かるようデザインされており、宇宙の構造を実感させ、大変興味深かった。②**「太陽分光写真儀室」**：「太陽系ウォーキング」の終わった所にある。建物は地上5階、地下1階の塔で、塔が望遠鏡の筒にあたり、塔全体が望遠鏡となっており、「塔望遠鏡」とも呼ばれている。また、ベルリンの天体観測所の「アインシュタイン塔」と同じ研究目的に造られたことから、「アインシュタイン塔」とも呼ばれている。

③**大赤道儀室**(天文台歴史館)：鉄筋コンクリートの2階建て。焦点距離10mに及ぶ屈折望遠鏡を、すっぽり収めた木製ドームは、木造船の造船技術で作られている。望遠鏡は屈折望遠鏡として最大の口径をもっており、レンズはツァイス製。床は、望遠鏡を操作する人の身長に合わせて、上げ下げ出来るようになっており床下には巨大な鉄の錘が三箇所にあり、重さを利用して手動で操作した。主に土星や星の位置観測に使われていたが、現在は使われていない。今は、この建物は天文台の歴史に関する資料の展示に使われている。

④**展示室**：ハワイの「すばる」とかその他の地域にある天文台・観測施設を紹介すると同時に、最近の研究プロジェクトを紹介している。現在、宇宙の果ては137億光年と言われているが、「すばる」望遠鏡は128億光年まで見られるので、これを使って、宇宙の果てが何処なのかを見ようと挑戦している。もし見られれば、宇宙の始めの様子が分かり、宇宙がどうやって出来たかを解明する手がかりになる。「すばる」は、申し込み手続きをして見学できるようになっている。また、別のプロジェクトでは、電波望遠鏡で星を見ている。星は生まれる前は光っておらず、赤外線という電波を出しているので、赤外線を捉えることの出来る望遠鏡で、星の卵の状態を観測でき、星が生まれる時の様子を知ることが出来る。日本とは地球の反対側にあるチリの、標高5000mの高地に、電波望遠鏡の集団を造る計画。望遠鏡が大きければ大きいほど解像力が上がるが、大型化には限界がある。そこで、或る原理を応用して解像力を高める。それは、二つの電波望遠鏡を間隔を置いて並べると、その間隔と同じ直径を持つ望遠鏡を作ったに等しい解像能力を得られるという原理。二つだけではなく、複数の望遠鏡をサークル上、または色々な配列に並べ、更に解像力を上げる。それには広大な敷地を要する。2010年頃、日本、アメリカ、ヨーロッパの共同で建設開始予定。また、「たま300」と言うプロジェクト。地下に東西南北、それぞれ300mの真空のトンネルを掘り、その中にレーザー光線が通っている。この研究の目的は、アインシュタインの考えている「重力波」の存在を観測できればということ挑戦している。いまだに世界中何処でも観測されていない。

⑤**第一赤道儀室**：「太陽系ウォーキング」の出発点そばにある。この建物は、鉄筋コンクリート造りの平屋建てで、東京帝国大学が1921年(大正10年)に造った。ツァイス製望遠鏡が設置されており、1939年(昭和14年)から60年間、太陽の黒点を手書きでスケッチして、数を観測していた。その結果、黒点は約11年の周期で増減していることが分かっている。太陽の表面温度は約6000度で、赤く見えているが、6000度より1500度くらい低い部分は黒く見え、これが黒点。黒点の数が多い時は太陽の活動が活発な時、少ないときは不活発。現在は、黒点の観測は写真で、世界各地で行われており、その記録は国際的な組織一箇所に集められ、集計され配布されている。こちら三鷹の天文台は、現在、望遠鏡による天体観測は行っておらず、野辺山とかハワイの「すばる」から送られてくる観測データを、こちらにある大きなコンピュータを使って分析・処理をしている。また、三鷹には大型望遠鏡用カメラの研究開発の施設もある。また、広大な敷地はまるで森林の中のように、背の高い樹木で覆われているが、みな植林をしたものだ聞いて、感心させられた。

京王フローラルガーデン・アンジェ：旧京王百花園をリニューアルした、本格的欧風庭園。「緑豊かで整備されたくつろぎの空間を提供すると共に、植物、ガーデニングなどに関する質の高い情報を発信する」ことをモットーにしている。園内には、「ウォーターガーデン」「マグノリアガーデン」「ハーブガーデン」「ローズガーデン」「ボーダーガーデン」などがある。入り口で全員の記念写真を撮った後、3班に別れ、3人のお嬢さんに百花繚乱の園内をくまなく案内してもらった。

八王子駅南口：大変感じの良い運転手さんの安全運転で、つつがなく八王子に帰着した。

(記録 矢崎安弘)

投 稿

「とまとのつぶやき」－絵手紙で小さなボランティア－

池田 ときえ

友人のA子さんは、可愛いはちのマークでお馴染みの市営ミニバス「はちバス」の名づけ親です。「はちバス」を立派に育てたいという親心から、ボランティアの仲間と「はちバスサブレ」も作りました。バスの形をしたおいしいお菓子です。小さな車輪まで一つずつ丁寧な手作り、材料を吟味して、卵は使わず無添加ですから、アレルギーのあるお子さんにも安心して与えられます。うちでも3才になる孫の定番おやつです。こんなに手間ひまかけて1枚80円、量産はできないというし、採算が取れるのかしらと、よそながら心配してしまいますが、A子さん達は、「はちバス」の宣伝のため、そしていつかは八王子の名物にしたいと志高く太っ腹です。可愛い蜂のマークにはいつも元気でプンブン飛び回っていて欲しいから、皆様のご支援ご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

またA子さんは、八王子ボランティアネットワークの一員として食事サービス「とまと」の運営にも関わっていて、ひとり暮らしの高齢者の方に、毎週2回夕食のお弁当を届けています。私も一度味見をさせて頂きましたが、やはりコンビニのそれとはひと味違います。毎回調理する人が変わるので、メニューや味付けにも個性が出るのでしょうか、飽きがこないと好評です。活動の中で、単にお弁当を作って運ぶだけではなく、作り手の気持ちも届けて、利用者とのコミュニケーションを図りたいと思っていたA子さんは、いいことに気がつきました。長年趣味で手がけている絵手紙を利用した通信をお弁当と一緒に届けるのです。こうして生まれたB5判、手書きの「とまとのつぶやき」は、お弁当の作り手と利用者50人を結ぶささやかな架け橋になりました。

毎号の「とまとのつぶやき」には、暑い日、寒い日の体調管理や食材の紹介、行事のお知らせ、スタッフの予定、日頃の思いなどがA子さんの手で簡潔に表現されています。目玉の絵手紙も始めは一枚をコピーして使っていましたが、最近は季節の絵手紙を一枚ずつ添えているそうです。熱心なA子さんの呼びかけに応じて、絵手紙仲間からたくさんの絵手紙が集まるようになったのです。わざわざ描かなくてもいいから、お手元に残っているものがあたらちようだいね」私も各教室の皆さんには負担にならないようそうお願いしていますが、「自分の親に絵手紙を出しているような気がしますから」と、嬉しい言葉が返ってきます。利用者からも「お弁当も嬉しいけれど、(とまとのつぶやき)や絵手紙も楽しみです」という声が届き初めました。絵手紙の描き手と受け手がお互いに元気を貰っているようです。A子さんのお陰で、私も人と人の心を繋ぐ絵手紙の良さを改めて実感しました。この繋がりがいつまでも続くように、これからもお手伝いをしていきたいと思っています。

4月の「とまとのつぶやき」をご紹介します。「桜満開！いよいよ春本番ですね。入園、入学、入社と新しいスタートの場面にもサクラ！富士森、滝山、陵南公園、近くにも名所がいっぱいです。お出かけになりましたか」(とまとスタッフ)

「いつもご馳走さまです。
今日は蓋をあけて驚きました。この何年も節句のことなど考えもしなかったのに、今日は節句の食事(3月1週はおひなさま弁当でした)で感無量でした。週2度の食事ですが感謝して頂いています。これからも宜しくお願いします」

(利用者からのお便り)



【橋本鋼二会員が春の叙勲】

我らが仲間、橋本鋼二さんが、春の叙勲で「瑞宝小綬章」を受章されました。これは北陸農業試験場長を勤めるなど、多年に亘る農業分野での功労によるもので、5月23日に農林水産省で伝達式があり、午後から豊明殿で天皇陛下に拝謁されました。誠にありがとうございます。

【平成17年度「市民健康の日」のお手伝い】

「はちおうじ健康づくり推進協議会」主催の、第二回市民健康の日「健康フェスタ'05」が、5月15日（日）に、富士森公園陸上競技場/市民体育館で開催された。当プロバスクラブからは、永井副幹事の手配で、各委員会から有志がお手伝いとして参加し、三箇所の受付に詰め、一人一人の来場者に「しおり」と「ルンルンセット」を手渡した。大変多くの来場者で賑わったが、特に、市役所を出発点としたヘルシー・ウォーキングのゴールの時間帯は、大変な賑わいであった。

投 稿

稲盛和夫の「生き方」を読んで

平 文夫

著者は京セラの名誉会長であり、稲盛財団を設立し「京都賞」の創設者としても有名な方です。「生き方」を読んで裨益するところが大でありました。

1. 人間が生きている意味について

「心を高めること、魂を磨くことにある・・・生きていくことは苦しいことのほうが多いものです・・・試験を機会として捉えることができる人・・・こそ、限られた人生を本当に自分のものとして生きていけるのです」の文章に、先ず共鳴しました。人格は「性格＋哲学」と割り切り、性格は先天的で哲学は後天的とする。「人間として正しいかどうか」の哲学が必要であり、哲学の実践として、釈迦（著者は仏教徒）の説く「精進」を奨めます。即ち、目の前の仕事に脇目もふらず打ち込むことが心を高め、人格を練磨するに最も大事で、一番有効な方法であると説きます。

2. 宇宙の流れと調和する

宇宙の流れ（意思）と人間の善い努力が合致するとの主張を著者はすすめ、人生には見えざる手が二つあるとし、一つは「運命」であり、人はそれぞれ固有の運命をもって人生を生きていくと説きます。然し人間はもう一つ、人生を根本のところまで司っている見えない大きな手があるとし、それは「因果応報」であるとしています。ここで大事なのは、因果応報の法則のほうが運命より若干強いことで、先例をもって説明しています。因果応報の法則が成り立つのは、それが自然の摂理に沿ったものとし、善因善果、悪因悪果とつながるのは天の理や意に叶ったものとし、ビッグバン理論を持ち出しています。宇宙の始まりにあって、先ずビッグバンで素粒子同士が結合した。それによって陽子や中性子、中間子が生まれ、それが原子核を形成して電子を取り込み、原子が生まれる。更に、核融合を通じて多種の原子が生まれ、その原子同士が結合して分子をつくる。その分子がまた結合して高分子を形成し、高分子はDNAという遺伝子を取り組んで生命を誕生させたと説明し、それが何故、一時の休みもなく、次々に生成発展を繰り返して、人類という高等生物にまで進化してきたかと自問し、全く無目的に行われてきたと考えるのは、むしろ不自然で、天の意に基いて必然的に行われてきたと考えるほうが、理にかなっていると判断しています。森羅万象あらゆるものを成長発展させよう、生きとし生けるものを善の方向へ導こう・・・それこそが宇宙の意思であり、言い換えれば、宇宙にはそのような「愛」「慈悲の心」が満ちているとしています。

3. 「生き方」を読んで

広大な世界観を樹立し、人間を愛する著者の立場がよく理解できます。明快な回答を与えたストイックな人です。宇宙の意思や神の存在の有無は、理屈の問題ではなくして、それを信じるか否かの心の問題であることも改めて認識しました。ビッグバンで創造主の存在を主張する学者の本は見ましたが、人間日常の行為まで関連づけての記述に会ったのは初めてです。得度式を経た専門の僧侶である著者が「いくら修行に努めようが、・・・私たち凡夫はついに悟りに達することは出来ないだろう・・・このことも私は痛感しました」と書いているのは正直な人柄を表していると、好感が持てました。